

**高等学校等における
オンライン国際交流の事例
～姉妹校・提携校等との国際交流の事例**



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

海外の系列校との連携による取組み【北海道 函館ラ・サール高等学校】

毎年、フィリピンにある系列校でボランティア活動を実施していたが、今年は新型コロナウイルスの影響で実施できなくなったため、代替として、ラ・サール会東アジア管区に属す地域の系列校と、Zoomを用いてディスカッションなどの交流を行った。

生徒たちは、交流を通してラ・サールの生涯や理念を共有し、それを基に、“自分たちには何ができるのか”ということについて模索した。

【プログラムの内容】

- ・毎週1回、Zoomを利用して、シンガポールのラ・サール校を中心としたセッションを実施。
- ・セッションのテーマとして、貧困や不平等・格差の解消、気候変動による影響の軽減に向けた2030年までに目指すべき17の「持続可能な開発目標」を扱った。
- ・個人レベル→小グループ→学校→ラ・サール会東アジア管区といった各レベルでのセッションを実施し、各々が現在の社会問題について深く考える機会となった。



【工夫した点】

- ・セッションを行うだけでなく、そこでの学びを生かし、実際の行動に繋げていけるよう、それぞれの学校で1つのアクションを考えて実践。
- ・古着回収を生徒主体で考案して実施。

【今後の課題】

- ・実践した内容を共有し、持続可能な活動となるようにしていく。



【経緯】

2015（平成27）年	フィリピンのハイメヒラリオ学園でのボランティア活動の開始（その後毎年実施）
2020（令和2）年	タイでのボランティアも予定（感染症の影響で中止）
同年9月～12月	Zoomを利用したアジア6か国との交流開始

姉妹校提携による取組 【岩手県立花巻北高等学校】

本校の姉妹校であるASMSA：アーカンソー数理芸術高校（アメリカ・アーカンソー州・ホットスプリングス市）との訪問交流事業が中止になったため、その代替として、花巻市の協力の下でビデオ会議ツールを用いた交流会を月に1回実施している。時差等を考慮して、本校は始業前、相手校は放課後の時間を調整し、約30分程度のLIVEによる交流としている。

【工夫した点】

- ・校内WI-FI環境を整備し、PCを一人1台利用して、できるだけ1対1の対話ができるようにした。
- ・花巻市国際交流課と連携して、連絡調整やオンライン接続の補助をお願いした。

【今後の課題】

- ・現在約30名程度の生徒が本事業に参加しているが、全校生徒が参加できるシステムを模索している。
- ・時差の関係から、交流会は30分程度に限られている。学校や地域に関する文化等を事前にビデオ撮影し、プレゼンテーションして意見交換を行うなどの発展的な交流事業にしていきたい。



【経緯】

2016(平成28)年	本校とASMSA高の姉妹校締結(9月)。
2017(平成29)年	ASMSA高生をホームステイ受け入れ(6月)、花巻市中学生派遣事業とタイアップして本校生徒4名を派遣(11月)。
2018(平成30)年	ASMSA高生をホームステイ受け入れ(6月)、本校生徒6名を派遣(2019年3月)。
2019(令和元)年	ASMSA高生をホームステイ受け入れ(6月)、本校生徒6名派遣を中止(2020年3月)。
2020(令和2)年	第1回交流事業(11月)、第2回交流事業(2021年1月)、第3回交流事業(2021年2月)

姉妹校提携による取組 【岩手県 盛岡中央高等学校】

学校主催の語学研修、姉妹校訪問、国際教育フォーラム、日本語研修受入れなどの行事がすべて中止となったため、オンラインでの交流を行った。国際姉妹校でも同様に国外との交流が難しくなっているため、お互いに協力して交流を深める工夫をした。

【プログラムの内容】

- ①【国際姉妹校生徒とのオンライン交流】インドネシア（日本語クラブの生徒たちとの交流）・シンガポール（SDGsをテーマに英語によるプレゼンと討論会）・イギリス（日本語を学んでいる生徒との交流）
- ②【国際姉妹校生徒とのオンラインクリスマスパーティ】国際姉妹校との交流行事がすべて中止になったため、国際姉妹校の生徒たちに呼びかけ、オンラインによるクリスマス交流会を開催した。誰でも気楽に参加できることを目指し、交流会を討論と交流の2部に分けて実施した。参加したのは本校の生徒のほか、オーストラリア、タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、カナダなどにある国際姉妹校の生徒およそ20名。

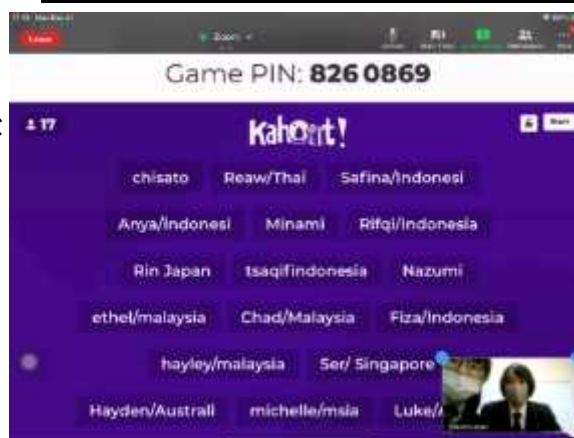


【工夫した点】

- ・ZOOMと同時に現地担当者とWhatsupやLINEなどを使用して進行した。
- ・誰でも気軽に参加できるよう、楽しい交流になるよう Kahootゲームなどを取り入れた。

【今後の課題】

- ・オンラインの利点を活用し、継続して交流を深める工夫が必要。



【経緯】

1999年～2020年	世界20の国と地域に25の国際姉妹校を締結。
1999年～2020年	毎年8月下旬に世界中の姉妹校から高校生を招聘し、「CHUO国際教育フォーラム」を開催。2020年8月開催予定の第22回CHUO国際教育フォーラムは新型コロナウイルス感染拡大のために中止。



姉妹校提携による取組み【宮城県 聖ウルスラ学院英智高等学校】

従来展開している台湾複言語研修（短期）及び台湾長期留学交流（一年）の交流ができなかったため、本校で毎年開催している「国際理解週間」のイベントの一つとして2種類のオンライン交流を行った一つは「OCCC（Online Cross-Cultural Communication Class）、もう一つは「できること会議」である。「できること会議」は現在も継続中であり、近々で両校のアイデアをまとめたものを発表予定である。

【プログラムの内容】

- ①OCCC・・・互いの文化を紹介し合い、疑問点について話し合い、相互理解の元で新たな交流の方向までをも見据えて行くという目標の下で実施。本校参加生徒は、全員中国語特別講座受講生であり、英語と中国語の両方を使用している流れとなった。
- ②できること会議・・・Bill Gates氏のスピーチを参考に、各校での6回にわたる事前会議の末、各高校生をターゲットに「高校生が未来をよくするためにできる10のこと」を創り上げた。それを英語と台湾華語に翻訳してプレゼンテーション資料を作り、台湾の姉妹校・海星高級中學と報告し合いをした。最終的にウルスラ版を作るのが目標である。（姉妹校もウルスラである）

【工夫した点】

- ①事前にルールを決め、出来るだけ英語をメインで使用し、サポートとして日本語・中国語を用いるという流れで行った。
- ②①で学んだことをもとに、会議の全てを生徒がコーディネートしていること。
オードリー・タン氏の講演に複数回参加し、どのような視点で話し合いをすべきかを検討した。

【今後の課題】

最終的に「ウルスラ版」を日本語・英語・中国語で作成し、発表していくこと。



【経緯】

平成27年7月	正式な姉妹校提携を結び、それ以後各種交流を継続（それ以前はウルスラ修道会という共通のバックボーンがあるのみだった）
令和2年9月～	事前学習及びOCCCを実施その後「できること会議」を開催
現在	双方の生徒の話し合いが継続中。

姉妹校提携による取組み【山形県 九里学園高等学校】

台湾の姉妹校（埔里高級職業学校）との相互交流（相互の短期留学による交流）が中止になったため、両校の教員間で協議を行い、ビデオ会議ツールを用いた、オンライン交流会を毎月1回の頻度で実施した。同校1・2年生の希望生徒6名が参加し、2020（令和2）10月～1月にかけて毎月1回放課後に1時間30分程度開催し、PPT資料を共有しながら互いの学校紹介をはじめ、文化紹介などを行い、それらについて意見交換会を行った。

【プログラムの内容】

- 初回：自己紹介・アイスブレーキング・中国語/日本語を話そう
- 2回目：学校紹介（プレゼン）・授業や部活動について意見交換
- 3回目：制服（制服紹介）・制服の在り方や考え方について意見交換
- 4回目：食/日常の食事（プレゼン）・郷土食などについて意見交換

【工夫した点】

互いの教員、生徒にとって負担感にならないように、テーマの設定やファシリテーションなどを月ごとに交代で実施。また、LINEグループを作り、上記以外のテーマでも主体的に自由に意見交換や情報共有ができるよう配慮した。

【今後の課題】

放課後の活動であったため、生徒の部活動や台湾の生徒の活動により、日程調整が難しく、プレゼンの準備などが十分になされなかったときもあったため、日程の調整が課題である。

【経緯】

2019（令和元）年6月	台湾の埔里高級工業職業学校と姉妹校提携を締結
2019（令和元）年9月	九里学園生徒5名が埔里高級工業職業学校へ訪問・交流
2020（令和2）年	埔里高級職業学校の生徒の来校が新型コロナの影響により中止
同年9月	九里学園の埔里への訪問が中止。台湾の交流担当教員からオンライン交流の提案を受け、企画、実施に至る
同年10月～1月	オンライン交流会の実施



ニュージーランド現地校（姉妹校締結予定）との取り組み【栃木県 佐野日本大学高等学校・中等教育学校】

2019年から本校で実施しているニュージーランドターム留学は、ニュージーランドの現地校へ希望者を3か月派遣するものであるが、2020年度は社会状況を踏まえ、中止となった。そんな中、2019年度実施校のうち2校と姉妹校締結の運びとなり、締結前に生徒同士のコミュニケーションの機会を提供することを目的として、オンライン交流を実施。2020年9月7日（月）14時～16時まで実施。

【プログラムの内容】

- 当日のみのプログラム：両校の生徒たちは互いに2グループ編成し、それぞれが自分たちで設定したテーマをもとに自国の文化紹介を実施

【工夫した点】

- 時差を考慮し、事前にZoomの接続確認を複数回実施
- 担当者とは事前にEメール等で日程／時間を調整
- 大講義室で行ったため、マイクやスピーカー等の音声確認を念入りに実施

【今後の課題】

- 当日、テレビ局の取材等が入り、予定以上の人数／カメラ台数が設置され、相手校生徒を驚かせてしまった。海外現地校生徒は日本以上にメディア掲載に関する取り決めが厳しいため、次回以降はメディアに関する周知を徹底。
- 現地校生徒が披露したハカの最中に音声トラブルが発生し、一時的に画像のみとなったため、wifi機器の事前確認を徹底する。



【経緯】

2019年7月～9月	ニュージーランドターム留学を実施。
2019年10月	本校とFeilding High Schoolのラグビー部との親善試合を栃木県佐野市で実施。
2020年5月	本年度のターム留学中止の決定
2020年9月	Zoomを活用したオンライン交流を実施。

中国姉妹校提携による取り組み【栃木県 佐野日本大学高等学校・中等教育学校】

2013年に交流校提携を結んで以来、毎年お互いの学校を訪問し、ホームステイ等を実施しているが、コロナウイルス感染拡大に伴う相互訪問が中止・延期となったため、その代替としてオンラインによる交流を実施。前年に訪中した生徒たち（3名）、及び2020年度に受け入れをする予定であった生徒及び中国語講座受講生たち（6名）がお互いの文化を紹介した。2020年11月10日（火）に、夕方4時～6時まで実施。

【プログラムの内容】

- ・当日のみのプログラム
両校の生徒たちは互いに2グループ編成し、それぞれが自分たちで設定したテーマをもとに自国の文化紹介を実施

【工夫した点】

- ・時差を考慮し、事前にZoomの接続確認を複数回実施
- ・担当者とは事前にEメール等で日程／時間を調整
- ・大講義室で行ったため、マイクやスピーカー等の音声確認を念入りに実施

【今後の課題】

- ・当日、相手校にタイムキーパーが不在であり、大幅にプレゼン時間が超過したため、時間の調整に関しては時間に対する文化的な感覚差を踏まえ、厳守を依頼する
- ・部活動紹介で実施した和太鼓演奏は、Zoomの機能的問題により、音声がほぼ認識されなかったため、急遽事前録画した動画を再生した。



【経緯】

2019年10月	月壇中学訪問を実施。5泊6日の日程でホームステイ・現地研修等を実施。
2020年1月	予定していた月壇中学生の4泊5日の受入を延期。
2020年10月	従来予定していた月壇中学生の受入も上記同様に延期。
2020年11月	従来予定していた月壇中学訪問も上記同様に延期。



マレーシア／オーストラリア姉妹校提携による取り組み【栃木県 佐野日本大学高等学校・中等教育学校】

両国に姉妹校を有し、毎年Fieldworkとしてお互いの学校を訪問・ホームステイや企業訪問などを実施してきたが、2020年度は社会状況を鑑み、中止・延期。Zoomを用いたオンライン交流を予定していたが、姉妹校側のコロナ感染状況悪化により、学校所在地区が閉鎖となり、実施が不可能となったため、Google Streamを使用し、共有フォルダを設置。両校の生徒がお互いの文化を紹介する動画を作成し、アップロードすることで、間接的なオンライン交流を実施。2020年10月～12月。本校より約60名の生徒が参加。

【プログラムの内容】

- ・本校生徒たちを3名1グループを20グループ作成し、それぞれのグループの自由意思で日本文化に関する任意のテーマを設定。そのテーマに関する「3分動画」を英語で作成し、共有フォルダにアップロード。

【工夫した点】

- ・時差を気にすることなく、また両校のコロナ事情に柔軟に対応できる方法を検討
- ・不必要な情報流出を避けるため、Google Stream機能を使用

【今後の課題】

- ・「急ごしらえ」のプロジェクトであったため、日本人生徒の「撮影不慣れ」が露呈してしまった
- ・作成した動画の編集に不慣れな生徒が多く、教員側の負担が増加した
- ・生徒の英語運用能力によって動画クオリティの落差が激しかった
- ・作成した動画に対するフィードバックを得ることが難しく、生徒のモチベーション維持が難しい



【経緯】

2013年6月／9月	マレーシア／オーストラリア現地校との姉妹校締結。
2019年6月	マレーシアFieldwork実施。10日間の日程。
2019年9月	オーストラリア姉妹校生徒を受入。8日間の日程。
2020年10月～12月	週に一回の動画作成時間を英語の授業内で設定し、完成次第アップロード



姉妹校提携による取組み【埼玉県立本庄高等学校】

本校は豪メルボルンにあるエッセンドン・キーロー・カレッジ（以下 E K C）と姉妹校の関係にあり、毎年夏季休業中に10泊11日のオーストラリア研修（姉妹校訪問）と、1～3月にターム留学生の派遣をしている。また、E K C 側も本校を訪れる研修を隔年で実施している。

しかし今年度はコロナウイルスの感染拡大により、これらの国際交流体験事業がすべて中止になってしまったため、その代案として本校2年次の生徒9名を対象としてビデオ会議ツールを用いたオンライン上での交流を行った。2020年（令和2）年9月に3回実施し、オンライン上でプレゼンテーションや意見交換を行った。

【プログラムの内容】

E K C ではコロナウイルスの感染拡大を受けてGoogle Meetを用いたリモート授業が行われていたため、そこに本校の生徒と教員が参加できるようにした。

- 第1回（8年生・中2）9/9（水）13:15-14:00 自己紹介、E K C 生徒の発表、英語での質疑応答
- 第2回（11年生・高2）9/15（火）10:00-10:45 本校生徒の発表、英語での質問の受け答え
- 第3回（12年生・高3）9/17（木）11:00-11:30 少人数グループでの会話練習

【工夫した点】

ビデオ会議ツールの特性上、一人ひとりの発言機会が少なくなってしまう傾向が見られたため、第3回ではGoogle MeetのURLを複数発行し、少人数での会話練習を行った。また、ビデオ会議や情報機器の操作に慣れていない生徒が多かったため、希望を募り夏季休業中にE K C の授業に体験参加できる機会を設けた。

【今後の課題】

本校とE K C の授業時程が異なるため、参加したE K C の授業を途中で退出しなければならなかった。夏季休業中に実施ができれば、時間を合わせられると考えている。



【経緯】

2007（平成19年）8月	E K C と本校の間で交流が始まった。令和2年までで生徒延べ216名がE K C を訪問した。
2017（平成29年）8月	E K C と本校の間で姉妹校締結。また、同年から夏季休業中の訪問に加えてターム留学もスタートした。
2020（令和2年）3月	新型コロナウイルスの世界的感染拡大を受けて夏季休業中の訪問を中止とした。
2020（令和2年）9月	E K C と本校の教員が協議し、オンライン上での交流を行った。

姉妹校提携による取組み【埼玉県 浦和学院高等学校】

例年、実施している姉妹校（台湾・南山中學）訪問が中止になったため、その代替として、ビデオ会議ツール（Zoom）を用いて生徒間交流を2020年11月に実施した。同校の1,2年生15名が参加し、協働学習として台湾側は「自国の新型コロナウイルス防疫について」、日本側は「東日本大震災からの復興について」のプレゼンテーションを実施した。また、折り紙作成を共同で行い、事後、互いにメッセージを記入し、プレゼントとして郵送した。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：「両国において困難な状況をいかに克服しているか」
- ・前半：両校校長の挨拶後、両校生徒による研究課題発表
- ・後半：オンライン指導による折り紙創作

【工夫した点】

- ・Zoomを接続する機器の数を極力減らし、発表者の切り替えや活動内容を共有し易くした。
- ・事前に先方とZoomにて打ち合わせを重ね、シミュレーションする中でイメージの共有を図った。

【今後の課題】

- ・オンライン交流の継続を検討する中で、この交流で成果を図れるような研究テーマを設定し、日々の授業や総合探求での取り組みと結びつけていく。



【経緯】

2015(平成27)年2月	台湾の南山中學との姉妹校提携を締結。
2020(令和2)年6月	11月の姉妹校訪問が、新型コロナウイルスの影響により中止。その代替プログラムとして、先方へオンライン交流会を提案。
2020(令和2)年11月	オンライン交流会実施

姉妹校提携による取組み【埼玉県 浦和学院高等学校】

例年、実施している姉妹校（台湾・慧燈中學）訪問が中止になったため、その代替として、ビデオ会議ツール（Zoom）を用いて生徒間交流を2020年11月に実施した。同校の2年生9名が参加し、協働学習として台湾側と日本側は自国の文化や高校生活についてのプレゼンテーションを実施した。また、英語による質疑応答形式の交流も行い、お互いのプレゼンテーションを聞いて感じたことや気になったことについて理解を深めた。その際、両国の新型コロナウイルスの状況についても共有した。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：「互いの文化や高校生活について知る」
- ・前半：両校校長の挨拶後、両校生徒による研究課題発表
- ・後半：英語による質疑応答形式の交流

【工夫した点】

- ・Zoomを接続する機器の数を極力減らし、発表者の切り替えや活動内容を共有し易くした。
- ・事前に先方とZoomにて打ち合わせを重ね、シミュレーションの中でイメージの共有を図った。

【今後の課題】

- ・オンライン交流の継続を検討する中で、この交流で成果を図れるような研究テーマを設定し、日々の授業や総合探求での取り組みと結びつけていく。



【経緯】

2014(平成26)年9月	台湾の慧燈中學との姉妹校提携を締結。
2020(令和2)年6月	11月の姉妹校訪問が、新型コロナウイルスの影響により中止。その代替プログラムとして、先方へオンライン交流会を提案。
2020(令和2)年11月	オンライン交流会実施

姉妹校提携による取組み【埼玉県 浦和学院高等学校】

例年、実施している姉妹校（中国）訪問が中止になったため、その代替として、ビデオ会議ツール（Zoom）を用いて生徒間交流を2020年12月に実施した。同校の中国語部2年生と3年生の計4名が参加し、協働学習として中国側と日本側は自国の文化や高校生活についてのプレゼンテーションを相手国の母国語で実施した。その後、質疑応答形式の交流も行い、お互いのプレゼンテーションを聞いて感じたことや気になったことについて理解を深めた。その際、両国の新型コロナウイルスの状況についても共有した。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：「互いの文化や高校生活について知る」
- ・前半：両校校長の挨拶後、両校生徒による研究課題発表
- ・後半：中国語及び日本語による質疑応答形式の交流

【工夫した点】

- ・Zoomを接続する機器の数を極力減らし、発表者の切り替えや活動内容を共有し易くした。
- ・事前に先方とZoomにて打ち合わせを重ね、シミュレーションする中でイメージの共有を図った。

【今後の課題】

- ・オンライン交流の継続を検討する中で、この交流で成果を図れるような研究テーマを設定し、日々の授業や総合探求での取り組みと結びつけていく。



【経緯】

2010(平成22)年7月	中国の大連市第十六中学との姉妹校提携を締結。
2020(令和2)年6月	12月の姉妹校訪問が、新型コロナウイルスの影響により中止。その代替プログラムとして、先方へオンライン交流会を提案。
2020(令和2)年12月	オンライン交流会実施

姉妹校提携による取組み【埼玉県 浦和学院高等学校】

例年、実施している姉妹校（韓国）の学生を本校に招いてのダンス部交流が中止になったため、その代替として、ビデオ会議ツール（Zoom）を用いてダンス部交流会を2020年12月に実施した。同校の1年生と2年生のダンス部部員が参加し、双方が事前に撮影していたダンス動画を披露した。その後、このダンス動画を基に意見交換会を行った。その際に、先方の学生よりダンスの技術的なアドバイスをいただき、同校生徒の技術力や知識向上の一助となった。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：「日韓ダンス文化について知る」
- ・前半：両校代表生徒の挨拶後、両校のダンスパフォーマンス動画披露
- ・後半：両国のダンス文化や技術についての質疑応答を交えた交流会

【工夫した点】

- ・Zoomを接続する機器の数を極力減らし、発表者の切り替えや活動内容を共有し易くした。
- ・事前に先方とZoomにて打ち合わせを重ね、シミュレーションの中でイメージの共有を図った。

【今後の課題】

- ・オンライン交流会を部活動の年間活動スケジュール内に設定する中で、諸大会との兼ね合いを考慮しながら、練習計画やパフォーマンス演目について検討していく。



【経緯】

2017(平成29)年10月	韓国の青雲学園・大田保健大学校との姉妹校提携を締結。
2020(令和2)年6月	12月の姉妹校ダンス部学生来校が、新型コロナウイルスの影響により中止。その代替プログラムとして、先方へオンライン交流会を提案。
2020(令和2)年12月	オンライン交流会実施

姉妹校提携による取組み【東京都立白鷗高等学校及び同附属中学校】

短期留学（フランス）及び姉妹校訪問が中止になった一方、姉妹校より短期留学生の受け入れを行ったことから、受け入れ期間中に留学生を中心として、ビデオ会議ツールを用いた国際会議を中学・高校に分かれて実施。中学生会議には同校25名、姉妹校12名の生徒が参加、また、高校生会議には同校15名、姉妹校11名の生徒が参加し、令和2年7月4日に2時間程度実施。これからの両校の交流について夢のあるアイデアを出し合ったり、新型コロナウイルス感染症がそれぞれの国にどのような影響を及ぼし、また、今後感染症とどのように向き合っていくのかを具体的に議論した。終わりに両国の中高生と一緒にフランス国歌と日本語の歌を歌い、温かく共感に満ちた交流となった。

【プログラムの内容】

- ・中学生会議テーマ 白鷗とフォンテーヌの未来を考える～生徒がえがく姉妹校連携～
- ・高校生会議テーマ COVID-19によって世界はどうなるか～私たちの未来を考える～
- ・使用言語：日本語及びフランス語

【工夫した点】

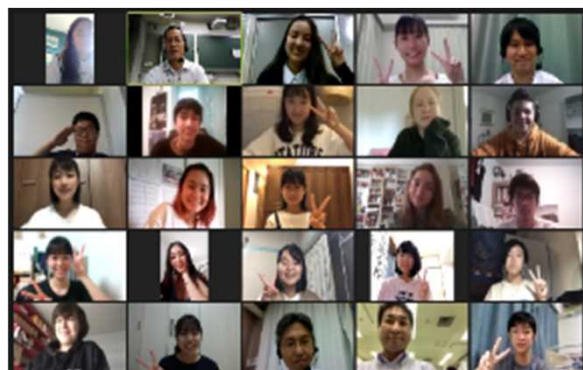
- ・小グループで生徒が発言できる機会の確保
- ・学年をまたいだグループ編成
- ・言語の習熟度を考慮したグループ編成を実施し、習熟度の高い生徒と低い生徒を組み合わせ、語学力を補完
- ・留学生をファシリテーターとし、各グループを巡回

【今後の課題】

- ・定期的（月1回）かつ継続的な交流を実現し、本会議で提案された活動を実施し姉妹校交流を図る

【経緯】

2019(令和元)年5月	フランスのアカデミー・ド・パリ（パリ大学区）と東京都教育委員会との教育に関する覚書に基づき、パリのジャン・ド・ラ・フォンテーヌ校と姉妹校提携を締結。（本校2校目の姉妹校）
2020(令和2)年3月	新型コロナウイルス感染症の影響により、学校主催のフランス短期留学(含姉妹校訪問)中止が決定
同年6, 7月	ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ校より、中学1年と高校1年に留学生受け入れ
同年7月	オンライン国際会議を実施



姉妹校提携による取組み【東京都 大妻多摩中学高等学校】

姉妹校（オーストラリア）との国際交流プログラムが中止された代替として、語学力向上と異文化交流を目的に、オンラインで互いに英語と日本語を学び合う語学研修やライブで両校の授業をつなげた共同授業、更に北半球と南半球という地理的な違いによる「天体の見え方の違い」や国を超えての「SDGs に対する取組み」なども話し合いのテーマに含め、理科や社会での学びを深める取組みも行った。本校からは中学3年生・高校2年生の生徒延べ67名、姉妹校からは高校1～3年生延べ36名が参加した。

【プログラムの内容】

- ・8月：「自己紹介」を中心に「将来の夢」等も話し合いながら、互いを理解する取組みを行った。
- ・9月：本校の英語の授業と姉妹校の日本語の授業による共同授業を行った。
- ・11月：「北半球と南半球での天体の見え方の違い」「SDGsに対する取組み」など理科や社会の授業で学んだ内容をテーマに含めた学び合い・意見交換を行った。

【工夫した点】

- ・交流時間を英語のみ・日本語のみを話す時間に分け、互いに語学を学び合う時間を確保。
- ・小グループをつくり、1人1人の生徒が発言できる機会を確保。
- ・理科や社会の授業で、その時に扱っていた分野を話し合いのテーマに含め、学びを深める取組みを行った。

【今後の課題】

- ・姉妹校では本校との交流のために有志生徒によるクラブが発足予定。今後、本校においても有志を募り、両校生徒の企画・運営によるオンライン交流・協働学習を行う予定。



【経緯】

2013(平成25)年3月	オーストラリアの私立ブリジティーン・カレッジと姉妹校協定を締結。その後、修学旅行での受け入れやターム留学など毎年両校生徒が互いの学校を数日～1ターム訪問・留学する国際交流プログラムを実施。
2020(令和2)年4月	新型コロナウイルス感染症の影響により、従来行っていた国際交流プログラムが延期・中止。
同年8月	オンラインによる語学研修・異文化体験研修を開始。



姉妹校連携による取り組み【東京都 吉祥女子高等学校】

姉妹校（アメリカ）からの世界中のパートナースクールへの呼びかけにより、ビデオ会議ツールを用いて、**オンライン高校生国際会議**を開催。使用言語は英語。1回目は5月、2回目は10月、3回目は2月で、それぞれ4週間にわたり、毎週土曜日の夜に「新型コロナウイルス」「民主主義」「SNS」という大きなテーマに沿って、専門家の講義やパネルディスカッションを聞き、世界中の高校生とグループディスカッションをしたり、プロジェクトに取り組んだりした。本校からは毎回8名程度の高1・高2生徒が参加した。全体では世界中から13校100名程度の高校生が参加した。

【プログラムの内容】

第1回 テーマ：COVID-19 パンデミック 医療、経済、政治の視点から専門家の話を聞き、それぞれの国の状況を話し合ったり、自分たちができることを話し合ったりした。後半はグループプロジェクトとして、コロナ禍においてできることをテーマに、コンテスト形式で発表を行った。各所の混雑具合がすぐにわかるアプリのプロトタイプを企画し、準優勝を勝ち取った参加者もいた。5月から6月に実施。

第2回 テーマ：民主主義 アメリカ大統領選挙に伴い、民主主義について専門家の話や、民主主義ではない国や地域からの参加者の話、アメリカの選挙の仕組みなどについて学んだ。各国高校生の国政に対する意識を目の前にして、政治に無関心であってはいけないと気づいた参加者が多かった。10月から11月に実施。

第3回 テーマ：SNS 身近なコミュニケーションツールとなったSNSの問題点、将来性、利便性、危険性などについて、専門家からの講義から始まり、最終的にはグループプロジェクトを行う。2月から3月に実施。

【工夫した点】

レクチャー、パネル・ディスカッション、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、オンラインアンケート、性格診断・自己分析ツールなど様々な形で活動ができるようにした。姉妹校のつながりで、世界中の専門家および高校生と交流することができた。

【今後の課題】

非常に高いレベルの英語コミュニケーションが要求されるため、より多くの生徒が参加できるように柔軟な対応が必要かもしれない。



【経緯】

2016年1月	アメリカ Miss Porter's School からの短期留学生を15名程度受け入れる交流を開始。その後2020年1月まで継続。
2018年10月	同校とパートナースクール同意書を交わし、以後、一年留学生の派遣開始と短期留学生の受け入れ継続。
2020年3月	同校が世界中のパートナースクールから高校生を集めたサマーセミナーを企画したが、COVID-19によりオンライン実施に変更

姉妹校連携による取り組み【東京都 吉祥女子高等学校】

オーストラリアの姉妹校から4月に短期留学生の受け入れを予定していたが、COVID-19の影響により中止となった。そのため、来日予定だった生徒達とホストシスターになる予定だった生徒達を中心に、各学年の希望者を募り、ランチタイムにテーマを決めた交流をビデオ会議ツールにて行った。本校の生徒がオーストラリアの日本語を学ぶ生徒達の学習のお手伝いをした形である。各回8名程度の生徒が各学年から参加し、同学年の生徒同士で交流した。高3は通常の英語の授業の中で一クラスのみ実施した。

【プログラムの内容】 各学年ごとにテーマを決めて、オーストラリアの生徒が本校生徒に質問をしたり、意見交換をした。低学年では日本語と英語でクイズの出し合いもして楽しんだ。

テーマ： 中2 大好きな日本のキャラクターについて 中3 孤食と家庭での家事役割分担について
 高1 アルバイトと将来の職業について 高3 高校卒業を目前にした今の、将来への不安と希望

【工夫した点】 オーストラリアは日本語の授業中、本校はお昼休みに、デバイスは一つずつのグループでのオンライン活動としたことで、ICT機器が不慣れな生徒も参加しやすかった。日本語中心なので、英語が苦手でも参加しやすかった。

【今後の課題】 企画から実施まで、時間がなかったため、今後はより時間をかけて準備したうえで、継続実施したい。



【経緯】

2015年夏	オーストラリア Ipswich Girls' Grammar Schoolにおいて夏期セミナーを開始。以後25名程度が毎年参加。
2018年7月	同校と正式に姉妹校提携を締結。以後、一年留学生の派遣、短期留学生の受け入れを継続。
2020年4月	短期留学生の受け入れが中止。夏のセミナー派遣も中止。
2020年秋	お互いの担当教員同士で、オンラインにてできる交流を企画・実施。

姉妹校連携による取り組み【東京都 吉祥女子高等学校】

【週末オンライン留学 Change Makers' Fellowship プログラム】

COVID-19の影響により、姉妹校を始め、他のアメリカ留学がすべて取りやめとなった。姉妹校から、その代替案として、週末のオンライン留学プログラムChange Makers' Fellowshipプログラムのお誘いを受け、アメリカへの留学を断念せざるを得なかった生徒が取り組んだ。このプログラムに参加するための応募エッセイや奨学金の交渉も生徒自身で取り組み、本校からは奨学金を得て1名の高1生徒が参加した。

【プログラムの内容】

2020年9月から2021年2月にかけて、土曜日の夜にアメリカの姉妹校を中心に、世界中のパートナースクールの参加者がオンラインで集まって実施。週末オンライン留学の形で、**Change Makerとして、世界を変えるためのプロジェクト**を各自の興味のあるテーマに沿って企画し、専門家のアドバイスを受けながらアイデアを深めていった。環境、医療、貧困、教育などの世界の問題点に取り組んだ。

最終的には集大成として世界を変えるための自分の企画したプロジェクトを**オンラインでプレゼンテーションとして発信**した。

【工夫した点】

オンラインで集まってアイデア交換するときや議論するときもあったが、ほとんどは、各自のペースでアドバイザーの助言を受けながら進めることができたので、日本の学業とあまり支障なく両立できた。

【今後の課題】

実施期間が長く、費用も嵩むため、より多くの参加者を募るには調整が必要。



【経緯】

2020年6月	アメリカへの一年留学がすべて中止となる
2020年8月下旬	アメリカの姉妹校Miss Porter's School の Global Instituteより新しい週末留学フェローシップの企画が届く
2020年9月上旬	生徒募集、応募、奨学金申請、審査、参加生徒決定
2020年9月下旬	週末オンライン留学フェローシッププログラム開始



姉妹校提携による取組み【東京都 昭和女子大学附属昭和高等学校】

姉妹校（アメリカ・サウスカロライナ州アシュリーホール校）への研修プログラムを中止した。その代替として生徒の提案により、ビデオ会議ツールを利用したオンラインでのリアルタイムインタビューを行った。本校生徒（高校2年生5名、高校1年生3名）とアシュリーホール校の卒業生で現役大学生である3名が参加し、キャリア教育についての情報交換を行った。

【プログラムの内容】

全体のテーマ：「アシュリーホール校でのキャリア教育について」

参加生徒はキャリア教育について研究するグループに所属しており、その研究の一環として本インタビューを実施した。当日は大学生へのインタビューを英語で行い、高校でのキャリア教育がどのように進路決定につながったのか調査した。また、並行して同様の質問事項を日本の学校でも実施し、海外のキャリア教育と日本のキャリア教育にどのような差があるのか調査を行った。

質問内容：

- Q 1「将来の夢」 Q 2「大学での専攻」 Q 3「なぜその夢をもったのか」 Q 4「自分で決断し行動することが得意か」 Q 5「学校行事で進路決定に影響を与えたものは何か」 Q 6「日本のよいところ」

【工夫した点】

- ・事前に現地の大学生とやり取りをし、日時を定め、リアルタイムでのインタビューを実施した。
- ・昨年度研修プログラムを実施した際、交流を深めたアシュリーホール校の卒業生と継続して繋がりを持てた。
- ・大学生にインタビューを実施することで、高校でのキャリア教育がどう活かされているのか知ることができた。
- ・事前交渉および当日のインタビューに教員は参加せず、生徒は自主的かつ積極的に意見交換を行った。

【今後の課題】

- ・今回は1度のインタビューで終わってしまったが、定期的に意見交換を行い、キャリア教育が将来にどう影響するかを追っていく必要がある。



2020（令和2年）オンラインでのリアルタイムインタビュー



2019（令和元）年 チャールストン研修を終えて

【経緯】

2015（平成27）年	アメリカ・サウスカロライナ州アシュリーホール校と姉妹校提携を締結。
2015（平成27）年～	毎年約15名の生徒を派遣し、寮で共同生活を送りながら女性のキャリアについて協働研究を行う。

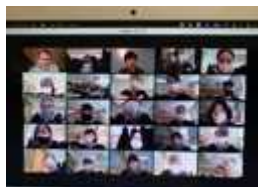
海外協力校（中学）・本学海外校（Boston）との連携による取組み【東京都昭和女子大学附属昭和中学校】

中学1年グローバルクラス（生徒36名）の海外研修を中止としたため、研修中に実施予定だった協力校（シンガポール）訪問を中止にした。その代替として、2021年2月に5日間の日程で【The World Discovery Week】を実施。シンガポール人（大学教授）・ケニア人（大使館書記官）・パキスタン人（他校講師）とのセッション（対面）、Global Issueに関する個人研究・発表と並行し、①**現地協力校中学校（2校）とのオンラインセッション（学校紹介・文化交流・プレゼンテーション・意見交換）**、②**本学Boston校スタッフとのオンラインセッション（文化・社会に関する意見交換）**を実施。



【プログラムの内容（主なもの）】

- 個人発表（Global Issue Research）：各自設定のテーマに基づき1年間研究した内容の発表
- 対面セッション：(1)「This is Singapore」シンガポール（大学教授）(2)「Africa Adventure」ケニア（大使館書記官）
- オンライン交流：(1)「West wood secondary school」「Hua Yi secondary school」オンライン交流（両校ともシンガポール）**
 学校紹介・クイズ大会・文化交流（春節の飾りを共同制作）・プレゼンテーション（poem紹介・日本文化紹介）
 (2)「Canada留学記」本校5年生 Canada留学の経験についてオンライングループセッション
(3)「Café Talk」本学Boston校スタッフとのセッション
 日米文化、社会についての意見交換
 各自Global Issueテーマについての意見交換
- イマージョン数学：本校教員による英語のみ使用した数学授業



【工夫した点】

- オンライン交流：事前に現地校生徒・本校生徒でバディを作り、事前にメール等で交流機会をもった。事前に教材・資料等の共有をし、スムーズに交流がスタートできるようにした。運営において時差を考慮した時間設定をした。**
- 全体：事前に各プログラムにおける狙いを各自に考えさせ、ノートに記載させた。
各プログラム後に必ず振り返りの時間を取り、各自の意見を全体でシェアするようにした。



【今後の課題】

- オンライン交流：定期的に実施、地球規模の課題の共同研究まで発展させたい。生徒同士（バディ）は、日常的な交流に繋がるとよい。**
- 全体：できる限り多くの国々の同年代生徒と交流させたい（時差・各校年間予定との調整が課題）

【経緯】

2016（平成28）年	West Wood校と協力校提携。West Wood校生徒・教員初来校。
2017（平成29）年2月	中1グローバルクラス生徒対象にAsia Discovery海外研修開始。West Wood校初訪問。
2020（令和2）年2月	Hua Yi校と協力校提携。初訪問。
2020（令和2）年10月	Hua Yi校と初のオンラインセッション実施。
2021（令和3）年2月	「The World Discovery Week」を実施。West Wood校・Hua Yi校・本学Boston校とオンラインセッションを実施



本学海外校（Boston）との連携による取組み【東京都 昭和女子大学附属昭和中学校】

中学2年全生徒対象のBoston海外研修を中止（延期）（2020/2021）した。その代替として、2021年2月に4日間（中3）・2日間（中2）の日程で、オンラインThe Boston Missionを実施。オンラインによる語学研修・研修テーマリサーチ・現地の方とのグループセッションを少人数グループ（1グループ17名程度）で実施。プログラムの最後には、全員がショートプレゼンテーションにChallengeした。

【プログラムの内容（主なもの）】

- 1 Bostonの歴史（フリーダムトレイル）・アメリカ文化についての現地講師による授業
- 2 研修テーマ別リサーチ：現地講師による授業、オンライン見学、ディスカッション等
 - (1) History
 - (2) American Life
 - (3) Art
- 3 Exchange with Bostonians：
 - 現地ボランティアの協力のもと、現地の方40名程度とのグループセッション
 - 生徒は事前に用意した各自のリサーチクエスチョンを相手に伝え、ディスカッションした。
- 4 ショートプレゼンテーション：
 - 全生徒が最後に、プログラムで学んだことについてのショートプレゼンテーションをおこなった



【工夫した点】

- 1 事前に学習教材・資料を郵送してもらい、生徒に配付できたので、生徒がプログラムのイメージをしやすかった。
- 2 時差を考慮した時間設定をした。
- 3 グループを研修テーマ別にしたために、生徒は各自の興味関心のある内容を中心に学ぶことができた。
- 4 1グループを17名程度にしたことで、生徒がより主体的・能動的にプログラムに参加できた。
- 5 オープニング・クロージングセレモニーを実施したことで、多くの現地教員と接することとなり、より現場の雰囲気を感じるきっかけとなった。
- 6 2年＞3年前半組＞3年後半組と順々に実施することで、前に出た課題を、次のグループの研修に生かすことができた。
- 7 1日3時間程度のプログラムにすることで、PC充電等の機械トラブルも少なかった。

【今後の課題】

- 1 短時間の交流を継続して行うことで、さらなる教育効果が望める。
- 2 グループ分けして少人数で実施するためには、多くの教室が必要となる。
- 3 ビデオ会議ツールの使用は、PCの著しい電力消費につながり、充電環境整備が必要となる。

【経緯】

2007（平成19）年3月	第1回 The Boston Missionを実施。
2020（令和2）年	オンラインミッション実施を決定。プログラム策定がスタート。
2021（令和3）年2月	中学2年対象 オンラインThe Boston Missionを実施。2日間。
2021（令和3）年2月	中学3年対象 オンラインThe Boston Missionを実施。2グループにわけ、各4日間。



姉妹校提携による取組み【神奈川県立横浜氷取沢高等学校】

姉妹校（大韓民国京畿道）との相互訪問が中止となったため、その代替として、ビデオ会議ツールを活用し「両国の文化についての協働学習」を実施。参加生徒は1・2年生の14名。実施期間と回数は令和2年10月から12月までに3回行い、発表では個人単位でスライドを用いたプレゼンテーションや意見交換を実施した。相互訪問が再開したのちにも事前事後学習として活用する。

【プログラムの内容】

- 第1回：研究テーマ「お互いを知ろう」。指定されたMeetルームに集合し、各校の教員の司会のもと両校の校長の挨拶ののち参加生徒一人ひとりがスライドを活用して自己紹介を含めた発表。のちに意見交換。
- 第2回：研究テーマ「お互いの生活」。自国の高校生文化を相手の国の言葉を使用して発表。のちに意見交換。
- 第3回：「お互いを知ろう～まとめ～」。研究テーマのまとめと感想を発表。のちに意見交換。

【工夫した点】

- ・スムーズな運営のために相手校の姉妹校交流との担当職員との間で、事前にメールで内容や参加人数の調整を図っていた。
- ・参加交流委員は志望理由書による書類審査及び面接を行って決定した。
- ・互いの国の言葉や文化、流行していることなどについて学が機会を設けた。

【今後の課題】

- ・来年度に向けて、「総合的な探究の時間」の研究テーマなどを活用して、更に充実させる。
- ・生徒の主体的、探究的な活動となるように整備をすすめる。



【経緯】

平成25年7月	大韓民国京畿道の始興陵谷高等学校との間で姉妹校提携を結び、生徒の相互訪問を年1回開始した。
令和2年6月	新型コロナウイルス感染症拡大のため相互訪問の中止を決定し、オンライン交流について調整を始めた。
令和2年9月	参加希望生徒の募集及び書類審査、面接を行った。
令和2年10月	ビデオ会議ツールを活用し姉妹校交流をオンラインで開始した。



アメリカ学校訪問（短期留学）交流 による取組み【神奈川県立座間総合高等学校】

アメリカ学校訪問研修（短期留学）が2年連続（R2,R3）して中止となったことから、昨年度（R2）訪問研修に参加予定であった生徒、および訪問先のアメリカ高校教員2名によるプレゼンテーションを、学校行事「国際フェスタ」内の演目として実施した。次年度以降の短期留学プログラムがスムーズに再開できることを目指し、アメリカ学校訪問研修の内容や現地校についての情報が、在校生や職員全体に示された。当日は2, 3年次生は会場のホールで、1年次生、保護者の一部はYouTube配信によって学校体育館で演目を観覧した。

【プログラムの内容】

国際フェスタ：語学力や発表力を高めると同時に多様な文化に触れることにより国際的視野を広げることを目的として、11月にハーモニーホール座間の大ホールで開催した。母国語以外を使用したプレゼンや歌、文化発表など、合計で13の演目を実施した。

演目①：2年次生徒3名が、アメリカ学校訪問研修に向けての事前研修の内容や、訪問校の「バディー」などに実際に聞いた内容を踏まえ、北米の高校生の一日について、バディーからのビデオメッセージを使いながら英語で発表した。

演目②：アメリカ研修訪問校（インディアナ州ミシガンシティ高校、チェスタートン高校）の担当教諭2名が、アメリカ現地の地理、気候や、本校の訪問研修、現地校での新型コロナウイルス感染状況や対応などについて、舞台上の演技者からの質問に日本語で答える、「生中継」の形式をとった演目である。

【工夫した点】

演目①では、アメリカ人「バディー」の英語のビデオメッセージに、日本語の字幕を付け、観覧する誰でもが理解できるように工夫した。演目②においては、実際にアメリカとの中継を実施するには、時差や演目の長さ、同意通訳の必要性、インターネット接続時のトラブル対応など、多くの問題が生じる可能性があったので、台本を工夫し、アメリカから送られた動画をあらかじめ編集することで、客席、舞台上と、アメリカの教員との掛け合いという、「生中継」の形式をとった演目にした。

【今後の課題】

今後の国際フェスタでは、国際交流の効果を最大限に引き出し、その魅力を提示するために、実際にホームステイをするアメリカ訪問校の高校生と舞台上の生徒との双方向のやり取りを演目の一つとして実施したいが、時差（現地時間午前2時）、同時通訳の必要性、インターネット通信の接続、リアルタイムコミュニケーションに必要な英語力など、解決すべき課題は多い。

【経緯】

2010年3月	「第1回姉妹校訪問」としてインディアナ州ミシガンシティ高校で短期訪問研修を実施
2012年3月	インディアナ州チェスタートン高校が交流校として加わり、以後2校で短期訪問研修を実施
2020年3月	コロナウイルス感染対策のため、「第11回姉妹校訪問」研修中止
2020年11月	国際フェスタ2020にて、上記の演目を実施

姉妹校提携による取組み【神奈川県立神奈川総合高等学校】

従来姉妹校である韓国の東豆川外国語高等学校とはバディを組んで、ホームステイや共同学習をしていたが、本プログラムではオンラインバディを組み、言語学習だけでなく、相互の文化交流を行うねらいのもと計画した。

【プログラムの内容】

オンラインバディを1対1で組み、生徒同士でメールやZoomを活用して交流を行う。ただの交流にせず、バディ同士で各自でプロジェクトを設定（文化の違いについて相互プレゼンテーションなど）した。約1か月間生徒達は自分のペースで交流を行い、友好を深めるだけでなく、文化交流の意義を理解することができた。



【工夫した点】

初回は生徒を集め、学校間でのオンライン交流を行った。

【今後の課題】

本校内での募集人数を20人としていたが、予想に反し11人しか集まらなかった。プロジェクトの内容を生徒に任せきりだったため、次年度以降は募集段階でどういったプロジェクトを行ってみたいか事前にヒヤリングをしたり、指導を充実させたい。



【経緯】

2011年8月	本校と東豆川外国語高等学校とで姉妹校交流締結。
2020年3月	新型コロナウイルス感染症の影響により、韓国を含む全姉妹校訪問および受入の中止が決定。
同年6月～11月	グループ内でオンラインバディの交流プログラムを検討。 姉妹校とZoom、メールでのやり取りを経ながら実施の形が確定、生徒募集の実施。
同年12月～2021年1月末	オンライン交流プログラム開始。各バディ同士で交流をしながらプロジェクトに向けて活動。

他機関との連携による取組み【神奈川県立橋本高等学校】

オーストラリアのエージェントである「タイラーインターナショナル」と連携し、オーストラリアの教育機関へ訪問する予定であったが、中止になったため、その代替として2020（令和2）年10月～2021（令和3）年1月までの間の計6回、現地高校生と本校生徒30名によるオンラインでの交流を実施した。本年度は、1回目（10月）の交流、ウェルカムパーティーから始まり、オーストラリアの先生によるEnglish lessonやグリーティングカードの交換、お互いの国の文化紹介等を実施し、複数回行われる両校生徒のフリーチャットにより仲を深め、1月のフェアウェルパーティーで終了した。

【プログラムの内容】

《全6回のプログラム》

- ①ウェルカムパーティー、自己紹介、フリーチャット（10月）
- ②グループ毎による相互学校紹介、オーストラリアの先生による英語学習、バーチャルホストファミリービジット、フリーチャット（11月）
- ③～⑤
両国の文化についてのプレゼンテーション、グリーティングカードの交換、フリーチャット（12月）
- ⑥オーストラリアの野生動物紹介、フェアウェルパーティー（1月）



【工夫した点】

- ・グリーティングカードの交換により、お互いの文化を伝えあう機会を作った。
- ・プログラムにより少人数グループを作り、参加した全ての生徒がチャットやプレゼンテーションを行う機会を設けた。

【今後の課題】

- ・今回の国際交流では、オーストラリア・ゴールドコーストの街の紹介や、ゴールドコースト市長から学校に対する挨拶など、オーストラリア側からの発信が多かったため、来年度は日本側から様々な発信をしていきたい。

【経緯】

2019（令和元）年11月	オーストラリアのエージェント「タイラーインターナショナル」と連携し、クイーンズランド州ゴールドコースト市に姉妹校候補開拓。
2020（令和2）年6月	新型コロナウイルスの影響により、2020（令和2）年度8月に予定していたオーストラリア・ゴールドコーストへ渡航する国際交流プログラムの中止が決定。
同年7月	オンラインによる国際交流プログラム計画。
同年10月	オンラインによる国際交流プログラム開始。

姉妹校提携による取組み【神奈川県 横浜翠陵高等学校】

交流校（オーストラリア・クイーンズランド州）への交換留学生派遣・受け入れと、ニュージーランドターム留学が中止された代替として、それらのプログラム参加を予定していた生徒が、ビデオ会議ツールを用いて、オンラインで交流。

【プログラムの内容】

現地の日本語クラスと結び、交流。それぞれが学習している言語を活用する機会となるよう、本校生徒は英語で、現地生徒は日本語を用いたプレゼンテーションを行い、日英語を交えて質疑応答や意見交換を行った。学校生活、高校生の流行、現地について知りたい事、自国の紹介やおすすめ、各自の進路についての考えなどを共有し、お互いの生活の特徴や相違を知った。

【工夫した点】

実際の交換留学でのやりとりに近いものになるよう、事前に話し合いや準備を行い、伝統的な文化に加えて、高校生の日常で紹介したいことを伝えあうやりとりにした。

【今後の課題】

派遣や受け入れができるようになるまでプログラムを継続予定だが、長期休暇の時期やお互いの授業時程が異なる中で、調整を行い、ライブでのオンライン交流の頻度を上げ、内容をさらに充実させる。



【経緯】

2016年(平成28)年11月	オーストラリア・クイーンズランド州セント・アンソニーズ・カソリックカレッジと交流協定を締結（本校4校目の姉妹校）
2017年(平成29)年9月～	毎年、約1か月の交換留学を行い、高校生の派遣と受入を実施。 毎年、中学生の文通交流を実施
2020年(令和2)年6月～9月	新型コロナウイルス感染症の影響により交換留学生の派遣・受入中止、ニュージーランドターム留学中止
2020年(令和2)年7月～9月	教員間のウェブ打ち合わせ、生徒は個人とグループで準備、9月にウェブ交換留学会を実施

海外のパートナーシップ校との連携による取組み 【福井県立丸岡高等学校】

パートナーシップ校（台湾）の来日および訪問が中止になったため、その代替として、ビデオ会議ツールを用いた、新型コロナウイルスに関する諸問題についての協働学習を実施。本校2学年の生徒30名と相手校2学年の生徒32名が参加し、2020(令和2)年6月～7月にかけて定期的(隔週1回)に2時間程度実施。スライドを用いたプレゼンテーションや意見交換等を実施。

【プログラムの内容】

- ・本校学校設定科目「グローバル・スタディ英語」の授業で実施
- ・新型コロナウイルスに対する各国（台湾・日本・ヨーロッパ）政府の対応、学校生活、地域での取り組みについて紹介、意見交換

【工夫した点】

- ・教員間で事前に日を設けてビデオ会議(skype)接続確認
- ・接続トラブルに備え、スライドを事前に送受信
- ・当日、教員は別のskype経由で、進行確認
- ・事後学習として、相手校のパフォーマンスにフィードバック送信

【今後の課題】

- ・授業以外でも両校生徒間での交流が徐々に進んでいる。
今後の協働学習のテーマ設定に、生徒の意見を反映していきたい。



【経緯】

2016(平成28)年8月	台湾高雄市の福誠高級中学の生徒と本校ESS部の生徒が、愛知県で開催されたワールドユースミーティングに共同チームで参加した。また同年12月、台湾で開催されたアジア・学生インターネット交流プログラムにも共同チームで参加した。以降、毎年交流が続いている。
2019(令和元)年12月	台湾高雄市福誠高級中学と本校がパートナーシップ校提携を締結。
2020(令和2)年5月	本校学校設定科目「グローバル・スタディ英語」で、福誠高級中学の生徒とオンライン交流を開始。



姉妹校提携による取組み【福井県 仁愛女子高等学校】

本校主催のニュージーランドでの長期留学（例年であれば、1月中旬から11月中旬の約10か月）の目処が立たないため、2019年度にニュージーランドの姉妹校から本校に短期または長期で留学に来ていた生徒2名との交流をオンラインで開始。2021年1月25日および26日の放課後、本校英語留学コース在籍生徒のうち17名が参加。30分から1時間程度、まずは自己紹介や質問のやりとりなど、簡単な会話を行った。相手側の都合がつけば、同じ生徒と、また別の学校の生徒とも今後も交流していくことを検討中（不定期）。

【プログラムの内容】

ビデオチャットやWeb会議ができるアプリを使用し、本校の生徒4、5名とニュージーランドの生徒1名が、自己紹介から初めて、質問のやり取りなどの会話を行った。

（1月25日：本校生徒4名＋ニュージーランドの生徒A / 本校生徒5名＋ニュージーランドの生徒B）

（1月26日：本校生徒4名＋ニュージーランドの生徒A / 本校生徒4名＋ニュージーランドの生徒B）

【工夫した点】

- ・交流の手始めとして、本校や日本のことを知っているニュージーランドの生徒に協力を依頼した。
- ・生徒一人一人が発言、同時に、緊張も少なくなるように、少人数のグループで行った。
- ・外国人講師や日本人英語教師が近くにいる、会話が途切れるようなときは、会話を続けられるように合いの手を入れた。

【今後の課題】

- ・交流できるニュージーランドの生徒の数を増やしていき、交流の機会を増やしていく。
（案）提携校の一つの「日本語クラブ」との連携
2020年に留学していた本校の生徒の友達・日本に留学したいと考えている生徒への声掛け
- ・交流時間をいつにするのか。（放課後？授業の一環で？）
- ・日常会話といったカジュアルな交流以外にも、互いの生徒にとって学びとなるプロジェクトを考えていく。
- ・本校生徒1人対ニュージーランドの生徒1人という交流ができるか。

【経緯】

2002年（平成14年） 4月	英語留学コース設立。2003年1月から、毎年20名前後の本校生徒がニュージーランドでの長期留学。現在に至るまで、ニュージーランドの提携校から短期や長期で留学生の受け入れを実施。
2019年 （平成31年/令和元年）	ニュージーランドのセントラル・ホークスベイ・カレッジからの生徒Aが本校で留学生活（4月～12月）。 ニュージーランドのオタマティア・ハイスクールからの生徒Bが本校で留学生活（5月～8月）。
2021年1月	ニュージーランドの生徒Aおよび生徒Bとの交流開始。



姉妹校提携による取組み【福井県立足羽高等学校】

学校主催の海外語学研修（姉妹校であるオーストラリア・マリスタ校訪問）が中止になったため、その代替として、訪問予定であった姉妹校の生徒たちとビデオ会議ツールを用いた交流活動を実施。同校2学年の国際科英語コースの生徒19名が参加し、2020(令和2)年8月～10月にかけて計2回、1時間程度実施。3,4人のグループ別で、自己紹介、学校紹介プレゼンテーション、フリートークを行い、交流を深めた。

【プログラムの内容】

- ・1回目の交流
 目的：自己紹介をして互いのことを知る
 内容：互いに簡単な自己紹介を行い、質疑応答を行った。互いを知り、共通点を見つけることで、次の交流へのモチベーションを高めた。
- ・2回目の交流
 目的：学校紹介をして文化の違いを知る
 内容：「学校生活」「体育祭」「文化祭」「運動部」「文化部」というテーマでグループに分かれ、パワーポイントを作成。本番の会議では、各グループがマリスタ校のグループへ向けて発表し、質疑応答、フリートークを行った。生徒からは「本校とマリスタ校との違いはもちろん、文化や生活習慣の違いなどもわかった」という感想が得られた。

【工夫した点】

- ・互いに質問したい内容を事前に共有しておいた。
- ・事前に本校生徒のグループ同士でZoom接続のリハーサルを行い、動作確認を行った。
- ・小グループ同士で会議を持つことで、生徒の発言の機会を増やした。

【今後の課題】

- ・単発的な交流でなく、1年次から3年間継続して交流の機会を持つ。
- ・本校生徒とマリスタ校の生徒で協働してプロジェクト学習を行う。

【経緯】

1995年	オーストラリア・キャンベラのマリスタ校と姉妹校提携を締結。その後、隔年で互いの学校を訪問し、交流事業を実施。
2020(令和2)年6月	新型コロナウイルス感染症の影響により、学校主催の語学研修の中止が決定。その後、ビデオ会議ツールを活用した、姉妹校とのウェブ交流を検討。
同年8月～10月	オンライン会議を計2回実施。

交流校との協働による取組み【岐阜県 岐阜聖徳学園高等学校】

交流校フィリピン国立レイテ高校とSkypeやZoomで繋ぎ、協働で探究学習を継続的に実施している。グローバルリーダーズ（本年度10名）は地域防災を中心テーマに双方の状況を紹介し、課題を見つけ地域への提言に至ればと模索をしている。また、クラスの総合や授業の中で、同様にレイテ高校とプレゼンテーションと意見交換を行っている。

【プログラムの内容】

- グローバルリーダーズ（本年度10名）
 - ・レイテ高校と「地域防災」をテーマに双方がプレゼンテーションと意見交換
「高校生の地域活動が地域の防災力の向上にどう役立つか」
 - ・グループ活動（本校生徒2名、レイテ高校1～2名を5つ）
各グループ、Facebook等で探究の内容をやり取りし、Zoomで確認し作業を進めている。
各グループが小テーマを設定（「アイデンティとは」「言語習得の違い」「交通と経済」「コロナ対応」「学生生活と進路」）日本とフィリピンの比較から探究、3月に共同発表を行う。
- 「総合の時間」（2年特進クラス12名） 沖縄の環境問題（ジュゴンを通して）のプレゼンテーションと意見交換
・Zoomで資料提示をし、質疑応答をしながら内容の確認を行った。
- 「Com英語」の授業（2年Ⅱ類34名） 「外国人が苦手な日本食」をテーマにプレゼンテーションと意見交換
・個人がロイロノートで作成したプレゼンテーションをZoomで発表。クラスの意見集約もロイロで行い紹介した。



【工夫した点】

Zoomで会話をする前に、十分メール等で文字で意見や質問内容をある程度交わしておく。
英語教師の補助を最小限に、極力頼らず自分たちで考え英語でやり取りをする習慣をつける。

【今後の課題】

他のクラスでも、気軽に交流ができるよう校内への周知や、先生方への紹介をさらに行う。
年度末開催予定のまとめの発表会で、レイテの生徒との共同発表がスムーズにできるよう探究学習を完結させる。



【経緯】

2014(平成26)年	岐阜県の「ぎふグローバル人材育成推進事業」採択。フィリピン国立レイテ高校と交流開始（含、オンラインによる交流）
2014(平成26)～ 2017(平成29)年	過去3回15～25名の生徒をフィリピンに派遣。また3回レイテ高校より20～25名の生徒、教員が来校。丸1日全校で交流。
2019(令和元)年	iPad 1,2年全員に配付。総務省主催「ぼうさいこくたい」で「第1回全国高校生地域防災サミット」主催(オンライン参加校も)
2020(令和2)年	レイテ高校来校・訪問中止 国内の留学生6名を招いて3日間異文化交流（オンラインも予定）

提携校との連携による取組み【静岡県西遠女子学園高等学校】

海外留学生受け入れと学園祭が中止になったため、その代替として、オンライン学園祭を開催、課題探究学習としてのクラス研究展示をインターネットで公開した。その研究内容について、高校2年生1クラスが、提携校である豪州女子校2校の生徒とオンライン会議ツールを利用してSDGsや地球環境について意見を交換し、交流を行った。

【プログラムの内容】

- ・「地域と世界」をテーマに4ヶ月かけてクラスごとに課題探究学習を行い成果を、「オンライン学園祭」の主要な内容として10月にインターネットで公開した (<https://seien.ed.jp/seien-fes/>)。英語版のページを作成し、評価ルーブリックを開発して外国人による審査を受けた。
- ・学園祭クラス研究のテーマを元に、豪州提携校の日本語専攻の生徒と、本校2年の生徒がオンラインで英語と日本語によるグループ討論を行った。本校生徒は、SDGsについてオーストラリアにどう根付いているか質問するなど、踏み込んだ意見交換を実現した。

【工夫した点】

- ・生徒がG Suiteを活用し、ICT支援による協働作業（CSCW）が出来る環境を構築した。
- ・成果をインターネットで公開するために、クリエイティブ・コモンズを活用して著作権に配慮させた。
- ・クラス研究展示に対して日本語と英語の評価ルーブリックを開発し、外国人審査委員以外にも教員、保護者、生徒による500人規模のオンライン評価を実施した。
- ・Zoomのブレイクアウト機能を利用するなど、オンライン会議のパターンを複数試した。
- ・豪州提携校の教員と綿密な事前打ち合わせを行った。

【今後の課題】

- ・高校2年の他クラス・高校1年の意見交換プログラムを実現させる。
- ・日豪の年間スケジュールの中で交流の定期プログラム化を図る。

【経緯】

1998（平成10）年12月	併設中学3年「オーストラリア研修旅行」開始。シドニー近郊の女子校との交流・提携が始まる。
2020（令和2）年6月	静岡県グローバルハイスクール研究校の指定（令和2・3年度）を受ける。
2020（令和2）年10月	「西遠オンライン学園祭2020」を開催、中3から高2までの全クラスが課題探究学習の成果をインターネットで公開。
2020（令和2）年11月 ～12月	オンラインでの国際交流プログラム開催に向けてオーストラリアの提携校と企画・協議し、11/18、12/1に実施。





姉妹校提携等による取組 【三重県立宇治山田商業高等学校】

国事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」において計画していた姉妹校との相互学校訪問（オーストラリア）やSDGs先進国への海外研修（スウェーデン）が中止になったため、11月～12月に現地の人々とのオンライン交流を行った。

姉妹校交流

【プログラムの内容】

ESS部に所属する生徒11名が、姉妹校モンバルク・セカンダリー・カレッジで日本語の授業を履修している生徒と異文化交流

【工夫した点】

- ・両校の高校生が興味を持てるよう英語と日本語で交流
- ・姉妹校の担当教員と事前に電子メールで打ち合わせ

【今後の課題】

- ・交流内容の充実

オンライン講義

【プログラムの内容】

スウェーデン在住の日本人学校講師による、スウェーデンにおける先進的なSDGsの取組に関する講義に、2学年の生徒8名が参加

【工夫した点】

- ・海外交流アドバイザーの助言を得て、講師を選定
- ・講師と事前に電子メールで打ち合わせ

【今後の課題】

- ・定期的実施する場合の計画立案



【経緯】

平成8年8月	三重県立宇治山田商業高等学校とモンバルク・セカンダリー・カレッジとの間で姉妹校提携。その後毎年相互学校訪問を実施
令和元年5月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に採択され、海外交流アドバイザーを雇用。本事業担当教員とともに海外研修を担当し、研修先や研修内容を決定
令和2年9月	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の姉妹校との相互学校訪問及び海外研修の中止が決定。その後、オンライン開催を企画
同年11月～12月	オンラインによる姉妹校交流及び講義を実施



交流校提携による取組み【滋賀県 ヴォーリス学園 近江兄弟社高等学校】

分散型海外研修旅行（第2学年が10の国と地域に分かれて行う国際交流プログラム）が中止となった。そこでアーツサイエンスクラスの147名が、オンライン会議システムを利用し台湾の交流校（衛理女子高級中學）と共同研究（Joint Research Program）を行った（本稿はこのプログラムの紹介）。また単位制ヒューマンネイチャークラスの25名は、姉妹校（明倫高級中學）と、手紙を使つての「文通」と双方ビデオメッセージを送り合い海を越えた友情の種を蒔いた。国際コミュニケーション科の1年生70名はアメリカの日本語を学ぶ若者と日本語・英語を織り交ぜて交流を行った。

【プログラムの内容】

- 両国の社会的課題をとりあげ、SDGs達成の観点から自国の課題について調べ、発表する。
例えば、「女性の社会進出について台湾から学ぶ」や「海洋ごみ問題はプラスチックバッグ禁止で改善できるか」など、フィールドワーク・アンケート・インタビューなどのリサーチ結果を共有し、研究を深めた。

【工夫した点】

- 両国でチームを組み、それぞれの発表を踏まえてチーム発表にまとめ上げた。SNSの活用で情報を共有した。
- コンピュータ部の協力を得て、ICT機器の技術的な課題を教員と共にクリアした。

【今後の課題】

- 情報科との協働でスライドの作成スキルのスタンダードを上げる
- さらなる回線・音声・映像等の品質レベルを上げること。
- チーム内のITスキル格差を縮めること。
- 英語力の向上。



【経緯】

2018年5月	衛理女子高級中學が本校を訪問、市内観光やホームステイを通じて交流を深めた。 (翌年、本校の分散型海外研修旅行にて訪問)
2020年 9月	新型コロナウイルス感染症のため、分散型海外研修旅行の中止
2020年10月・11月	共同研究プログラム。お互いの自己紹介に始まり双方の研究の紹介
2021年 1月	日台の合同チームで作り上げた研究の発表大会。



海外の教育提携校との連携による取り組み 【滋賀県 立命館守山中学校・高等学校】

例年実施している校内の様々な海外派遣プログラムが中止となり、更に年間100名以上の受け入れを行っているインバウンド留学生もコロナ禍により受け入れがストップしたため、「コロナ禍でも国際交流に参加したい時に参加できる」ことを目標に、生徒に世界の同年代との交流の機会を設けるためビデオ会議ツールを用いたオンライン交流会「世界まる見え交流会」を毎月定期開催。これまでに8回実施し、2020年度を通じて世界8カ国（ポーランド、カナダ、オーストラリア、ベルギー、インド、UAE、トルコ、韓国）120名以上の中高生と、本校生徒100名以上が交流を行った。

【プログラムの内容】

基本的には希望する生徒を募り放課後1時間を用いて生徒の端末からそれぞれが接続する形で実施。

交流の基本的な流れは「メインセッションでのオープニング→グループに分かれての交流（1グループ6名ほど）→メインセッションで交流内容の交流→別メンバーとのグループに分かれての交流→メインセッションで交流の共有とクロージング（双方代表によるThank you message→Group Photo）」となっている。

【工夫した点】

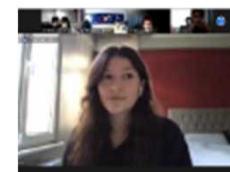
- オンライン授業などもあり内向きになっている生徒も多いことから、参加へのハードルが高くないように事前の準備は必要なく、気軽に参加ができる形での実施からスタートした。（当初は両国のコロナ禍の生活についてのQ&Aが多かった。）
- 伝える素材があることが生徒にとっても交流を深めるためにメリットが大きく、回を重ねるごとに、生徒主体での運営（生徒がMCを行う）や、簡単な身近な日本・学校紹介プレゼンなどを準備する、より生徒にとっても学びのある形で実施した。

【今後の課題】

- オンライン交流ならではの難しさもあり、英語でのやり取りに慣れていない生徒のサポートを行うファシリテーターを確保する
- 交流内容をより深めるためのプログラムデザインを設計する
- 交流からより一歩深めた協働学習プログラムの設計を行う

【経緯】

2020年5月	第1回世界まる見え交流会を、昨年度まで本校で学んでいた留学生たちと実施
2020年5月	第2回世界まる見え交流会（ポーランド）を実施
2020年7月	第3回世界まる見え交流会（UAE）を実施
2020年8月	第4回世界まる見え交流会（インド）を実施
2020年9月	第5回世界まる見え交流会（インド）を実施
2020年10月	第6回世界まる見え交流会（韓国）を実施
2020年11月	第7回世界まる見え交流会（トルコ）を実施
2020年12月	第8回世界まる見え交流会（UAE）を実施





姉妹校連携および他機関との連携による取組み【大阪府 近畿大学附属高等学校】

学校主催の海外語学研修および、学期留学が全て中止となるなか、生徒に対するグローバル教育の機会として、また、姉妹校その他、これまで本校が築いてきた国際的なつながりを、このコロナ禍においてもより深化させるために、本プログラムを企画した。2021(令和3年)の1～3月をかけた長期間のプログラムを通じ、オンラインの強みを生かした、生徒たちの英語力向上だけではなく、グローバルマインドを育む教育プログラムを目指した。学年・コースを超えた9名の生徒が本プログラムに参加した。

【プログラムの内容】

- Pre-Session(12月)：オンライン英会話・個人レッスンを受講（希望制）
- Session 1(1～2月まで4週間)
 - ： 海外語学学校の英会話講師によるオンライン英会話・グループレッスン（毎週火曜・木曜放課後、2時間）
 - オーストラリア・マルタ共和国と日本の関係に関わる講師によるゲストスピーチ（毎週水曜放課後、2時間）
- Interval Session（2月）：オンライン英会話・個人レッスンを受講（希望制）
- Session 2(3月)：海外姉妹校2校の生徒との交流プログラム



【工夫した点】

- 海外研修や留学においてはUncomfortable Zoneが生徒を成長に導くと考え、オンラインにおいてもできるだけ生徒に負荷がかかる課題量を目指した。
- 海外語学学校や、ゲストスピーチの講師に対する依頼・調整は、留学エージェントに依頼し、できるだけ教員の負担が小さくなることを考えた。結果、領事館や観光局・海外大学など多様な方々に関わっていただくことができた。
- 語学研修としても一定の成果をあげられるよう、オプションでの英会話レッスンを設定。生徒・保護者の満足度を高めることに配慮し、また、参加する生徒の英語のレベル差に対応できた。

【今後の課題】

- 2期研修の実施に向け、内容・形態をさらに効果的な学びが得られるものなるよう工夫し、留学・海外研修再開後も、本校のグローバル教育におけるプログラムとして位置づくよう、単なる一過性の緊急避難的なプログラムとしないことを目指す。



【経緯】

2020年3月以降	予定していた海外研修や留学が中止・募集停止となる。
2020年9月	本校グローバル教育室にて、海外研修・留学の代替プログラムの検討を開始
2020年11月	「オンライン英語学習 & 国際交流プログラム」の説明会実施
2020年12月	プログラムのPre-Sessionが開始。



姉妹校提携による取り組み【大阪府 アサンプション国際中学校高等学校】

姉妹校（フランス）研修、その他フランスおよびフランス語圏の高校生との交換留学が中止となる中、コロナ禍でフランス・ボルドー姉妹校の生徒達はZoom授業での授業を行っていたため、5月から定期的にボルドー校の日本語授業と本校フランス語の授業を合同で実施。本校2年生有志約10名がボルドー校1年生と2年生の授業に、高3「フランス語演習」の授業選択者14名が高2、高3の授業に参加。毎回テーマを決め、プレゼンテーションや質疑応答などを行った。

【プログラムの内容】

- ・事前に、テーマに合わせた簡単なプレゼンテーションを学習言語で作成しておく。
- ・事前に、テーマに合わせた質問事項を学習言語で考えておく。
- ・総時間は1時間程度。前半30分は日本語、後半30分はフランス語で行う。
- ・基本的には学習中の言語で質問し、返事は母語で行う。

【工夫した点】

- ・生徒達ができるだけ自由に発言できるような雰囲気作りを最初に教員が行い、生徒同士で表現の間違いや文法の間違いを指摘しあうようにした。

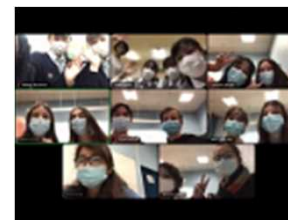
【今後の課題】

- ・時差の関係があり、授業受講者全員がZoomに参加するのは難しいため、以前から相手を決めて行っている文通を通して、各自がSNSやメールなどで繋がりを深めておき、日仏共同でプロジェクトを進めていく形を検討するが、好評であったZoom授業も継続できるよう、日仏教員で様々な可能性を探っていく必要がある。



【経緯】

2007年4月～	姉妹校研修開始（隔年で希望者がフランス訪問/日本訪問）
2010年12月～	テーマを決め、定期的に文通開始
2014年12月～	文通を継続しつつ、自己紹介・学校紹介・街紹介などの動画の交換
2020年5月～	文通、動画交換も継続しつつ、Zoom合同授業





海外提携校との連携による取組み【大阪府 大阪YMCA国際専門学校国際高等課程国際学科】

提携校（デンマーク）との短期交換留学が中止となったため、その代替として、ビデオ会議ツールを用いたオンライン交流週間を実施。同校2年生徒31名、デンマーク生22名が参加し、2021年2月8日～12日の5日間（1日あたり約3時間）の交流を実施。コロナ渦でのステイホームを経験した生徒の目線から「Homeについて再考する」というテーマで、双方の生徒で混合編成されたグループでディスカッションや共有スライドを用いたプレゼンテーション、文化紹介などの交流を実施。

【プログラムの内容】

- ・ 全体テーマ：「Reflecting “staying home” and design your ideal home of the future」
- ・ 1・2日目：全体でアイスブレイク・アクティビティを実施。ブレイクアウトルームで各グループでテーマに関する意見交換・ミニ発表。
- ・ 3・4日目：3日目はデンマーク側、4日目は日本側が「カルチャーデイ」を主催し、互いの文化紹介、ビデオ放映、パフォーマンス実施。
- ・ 5日目：テーマに関する発表会。プログラム全体の評価会。Farewell partyとして、各自が好きなお菓子を紹介し、スナックタイム。

【工夫した点】

- ・ 連続した日程で毎日プログラムを実施することで、生徒が集中的に取り組むことができた。
- ・ 自宅・学校・住む街の雰囲気や状況を互いに伝えるため、生徒が事前にビデオ作成をした。
- ・ グループに分かれて意見交換する時間を多く設けることで、生徒が発言する機会をつくった。

【今後の課題】

- ・ 生徒が互いの家や家族について、動画やテレビ電話で紹介する「バーチャルホームステイ」を実施。
- ・ 提携校の教員と評価会の時間をもち、次年度以降オンライン交流をする場合の改善につなげる。

【経緯】

2016年12月	デンマークの教育機関Eisbjerg International Efterskoleと、短期交換留学プログラムの締結。その後毎年、2年生の生徒（原則全員）を派遣し、約2週間デンマークに滞在し、その翌月にデンマークの生徒が2週間日本に滞在。
2020年11月	コロナウイルス感染症の影響により、交換留学プログラムの中止が決定。
同年11月～2021年1月	オンラインでの交換留学プログラム実施を決定。提携校の教員と月2回のミーティング、テーマ設定、グループ分け、プログラム作成。生徒は日本文化紹介動画作成、デンマークの社会およびテーマに関するトピックについて調査。
同年2月	オンラインでの交換留学プログラムを実施

姉妹校提携による取組み【兵庫県立姫路西高等学校】

姉妹校であるオーストラリアのロスモイン高校と、親交のある台湾の彰化女子高級中學、そして日本の高校生が、チームを組んでテレビ会議システムやSNS等を活用して連絡し合い、日本への旅行を共同で企画する。書類審査によって選出された4チームによる決勝では、テレビ会議システムで3カ国をつなぎ、英語によるプレゼンテーションを行う。令和元年度より開催し、2年度には本校がSSH指定校となったこともあり、日本の参加校を本校だけでなく、兵庫県下のSSH指定校に広げ、兵庫県の高校7校と海外2校によって、計17チーム102名が参加するコンテストに拡大した。

【プログラムの内容】

- ・「データサイエンスコンテスト」（令和元年度は「トラベルプランコンテスト」）として、データに基づく日本国内3泊4日のトラベルプランを提案するコンテスト。対象・交通手段等に制約はなく、各グループが提案根拠として様々なデータを活用しながら、自由にプランを作成する。
- ・6月 各校から2名1組単位で募集し、その後抽選でグループを作り、以降各グループ毎に活動する。
- ・10月 書類審査(参加高校以外の審査員によるウェブ上での審査)により、決勝進出チームを選出。
- ・10月 決勝では3カ国をオンラインで結び、4チームが英語プレゼンテーションを行い、最優秀チームを決定する。(優勝チームのテーマ「Japanese Light」-アジア圏の20代女性の、「光」を重視した北陸家族旅行-)

【工夫した点】

- ・時差の少ないオーストラリア、台湾との交流であることを活かして3校による合同討議を実現させた。
- ・単なる希望的提案とならないよう、根拠となるデータの内容や活用法についても、審査項目に加えた。
- ・兵庫県立大学や神戸市外国語大学、また地元企業の大和工業やJTB姫路支店等と連携を取り、多角的な視点からの助言を得た。

【今後の課題】

- ・グループでの討議やプレゼンテーションの中心が英語を母語とするオーストラリア生徒に偏りがちであるので、その点を是正したい。
- ・企画したトラベルプランの実現可能性を検証するコンテスト後の取組・事後指導についてもさらに考えたい。

【経緯】

2005(平成17年)	台湾・彰化女子高級中學との交流開始。2年に1回、日本訪問時に本校にて生徒間交流を実施。
2014(平成26年)8月	オーストラリア・ロスモイン高校との姉妹校提携。(2010年より交流開始。2013年から相互訪問を開始。)
2019(令和元年)10月	トラベルプランコンテスト開催。
2020(令和2年)10月	第1回データサイエンスコンテスト開催。(姫路西高校がSSH研究指定校となる。)





姉妹校提携による取組み【兵庫県 神戸国際中学校・高等学校】

姉妹校(Busan International High School)が開催する国際フォーラムは、例年は世界各国からの参加校が釜山に集まって実施されていたが、新型コロナの影響で、今回はオンラインでの開催となった。本校からは5グループ16名（3年生4名と2年生12名）が参加し、テーマに関連するサブテーマについて自分たちの意見をグループごとに共通言語である英語で発表した。発表後は他校からの参加者とチャット形式で意見交換を行い交流を深めた。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：“Post-Pandemic Societies”「パンデミック後の社会」
サブテーマ：「科学技術」「教育」「政治」「健康」「経済」の5つ
- ・参加国・地域
ベトナム・ニュージーランド・台湾・インドネシア・スウェーデン
日本（筑波大学附属駒場高校・奈良女子大附属中等教育学校・本校）
韓国（釜山国際高校）
- ・進行方法
11月2日以降 各グループが自分たちのプレゼンテーション動画をアップロードする。
11月5日のフォーラム当日までに他のグループのプレゼンテーションを見て、それに関する質問や意見をまとめる。
11月5日のフォーラム当日はチャットで質疑応答や意見発表を行い、いちばん最後に自分たちの振り返りを短い動画にしてアップロードした。
- ・フォーラム終了後、ホスト校のBusan International High Schoolから韓国の文化を体験するための品物が送られてきたので、実際にそれを使って異文化を体験しその様子を撮影した。撮影した画像と日本文化を体験してもらう品物をお返しとして送った。



【工夫した点】

- ・対面式ではなくオンラインでのフォーラム開催となったので、動画作成や他のグループのプレゼンテーションに関する質問作成等にALTの助言を活かした。

【今後の課題】

- ・初めてのオンラインでのフォーラム参加になったが、参加グループ数に制限がないのでさらに多くの生徒の参加を促す。また、発表内容を発展させるとともに、本校の教育活動としてしっかりと位置付ける。

【経緯】

2014年11月	韓国 釜山国際中学校・高等学校と姉妹校締結
2014年～2019年 2020年9月	釜山中学校・高等学校第6回国際フォーラム～第10回国際フォーラムに毎年参加する。9月新型コロナの影響により各国の姉妹校による「意見発表」「文化交流」をオンラインで開催することを決定
2020年11月2日～6日	11月5日にテーマ「パンデミック後の社会」で、各国の学校が意見交換をしたのち文化交流をオンラインで行った。

他機関との連携による取組み【奈良県立畝傍高等学校】

奈良県観光プロモーション課との連携により、令和3年1月19日に本校生徒18人が台湾の稲江高級護理家事職業学校の生徒との交流を実施した。本来であれば台湾の生徒を畝傍高校に招いての交流を実施したかったが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、Web交流となった。双方9グループに分かれ、学校紹介、台湾と日本それぞれの文化や互いに興味がある事柄について、英語で交流を行った。

【工夫した点】

- ・海外校を含む交流を希望する交流委員（1年）の生徒の参加で、積極的な取組を促した。
- ・来年度の研修旅行先である台湾の文化等を知るために、交流先を台湾の学校とした。
- ・双方2人を1グループとし、発言や交流の機会を多く取れるようにした。



【今後の課題】

- ・今回の交流で得た知識等を、来年度の台湾研修旅行に活かしていく方向性を持たせたい。
- ・今回はWebによる交流となったが、お互いの学校を行き来するような、オフラインの交流に発展させたい。



【経緯】

2020(令和2)年10月	奈良県観光プロモーション課より、Webによる交流の打診をうける。
2020(令和2)年11月	奈良県観光プロモーション課より、正式な参加要請があり、許諾。
2021(令和3)年1月	台湾の稲江高級護理家事職業学校とWebによる交流を実施。

他機関との連携による取組み【奈良県立高取国際高等学校】

各種国際交流が中止になったため、その代替として、以前より交流のあった台湾・^{ワンファン}萬芳高級中学とオンライン交流を実施。本校国際英語科1年生の生徒28名と、相手校生徒28名が、1対1で英語で約1時間交流した。自己紹介や趣味・学校生活・自国の文化について語り合った。

【プログラムの内容】

- 2020年9月 オンラインによる交流を計画
 相手校との交渉を教員が電子メールで行う
- 2020年10月 台湾についての事前調べ学習
 本校生徒のみでGoogle Meet試行
 英語の準備・練習
- 2020年11月 オンライン交流



本校側の様子

※生徒の感想「英語が通じてお互い笑い合えたとき嬉しかった」「もっと英語を上達させたいと思った」「次は実際に会ってみたいと思った」など

【工夫した点】

- ・1対1の英語での会話がスムーズに進むよう、話すトピックを相手校と事前に相談しておき、生徒が準備・練習した。



【今後の課題】

- ・話す内容を深め、ディスカッションできるように、継続して交流の機会を設けていきたい。（2021年春頃に計画中）
- ・海外との交流では、時差の問題の調整が難しい。



台湾側の様子
(相手校HPより)

【経緯】

2013(平成25)年	修学旅行での訪問先として、台湾・ ^{ワンファン} 萬芳高級中学との交流開始。
以降、毎年	本校第2学年が修学旅行で萬芳高級中学を訪問・交流。
以降、不定期	萬芳高級中学の生徒が本校を訪問・交流。
2020(令和2)年11月	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種国際交流が中止。オンラインによる交流を実施。



姉妹校提携による取組み Sister-School Online Exchange 【奈良大学附属高等学校】Nara University High School

毎年恒例のオーストラリアへの語学研修旅行がキャンセルとなったため、特進コースの48人の生徒が、姉妹校のあるキャンベラにいる生徒にICTを活用した日本の学校と学校生活を紹介するプログラムを実施しました。4～5人のグループに分かれ、5回の授業の中でプレゼンテーションを準備し、YouTubeにアップしました。キャンベラの3つの学校からは、学校紹介ビデオを受け取りました。プログラムは、そうした内容についてオンラインでグループディスカッションを行う形で展開しました。

【プログラムの内容】

- グループで、学校/学校生活のユニークな側面に焦点を当て、スマートフォンを使用してPowerPointプレゼンテーションを作成する
- プレゼンテーションで使う言葉や進め方に注意して、グループプレゼンテーションを行う
- オーストラリアの学校のビデオを見て感想をまとめる
- オーストラリアの生徒とのオンラインディスカッションに参加して、興味のあるポイントをフォローアップする

【工夫した点】

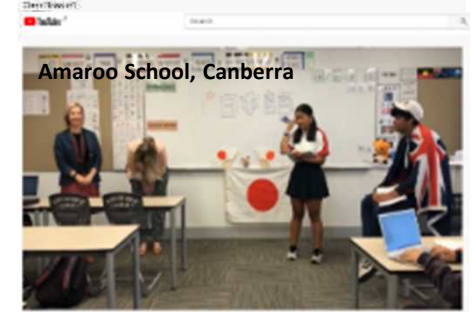
- スマートフォンでPowerPointを使用するスキルを身につける
- プレゼンテーションスキルを身につける
- 教育制度の比較
- 異文化理解
- 仲間との繋がり

【今後の課題】

- プログラムを通して、関心のあるトピックを探索し、ディスカッションセッションを増やす（最終的には1人対1人のディスカッション）

【経緯】

2014年5月～	姉妹校のDickson College, Gungahlin Collegeとオンライン交流が始まる (Edmodo, Skype)
2020年9月～11月	Amaroo School, Dickson College, Narrabundah CollegeとYouTube動画交換
2020年11月11日	Narrabundah Collegeとオンライン交流：Q&A(Google Meet)



海外高校との共同的な探究学習に係る取組み 【鳥取県立倉吉東高等学校】

国際的な視点を加えて探究学習を深めることを目的に、セントジョセフ高校（シンガポール）、安養高校（韓国）、桃園高校（台湾）の生徒と倉吉東高校2年生が、共通テーマについての共同的な探究学習活動を展開。4カ国の生徒は、2020（令和2）年6月以降、定期的に（月1回程度）Zoomを利用して研究に関するミーティングを英語で実施。2021（令和3）年1月に開催した探究学習成果発表会では、Zoomで同校と海外の高校を結び、各チームが研究成果等に係るプレゼンを英語で行うとともに、意見交換及び質疑応答等を実施。

【プログラムの内容】

- ・倉吉東高校3チームと、セントジョセフ高校、安養高校、桃園高校（各1チーム）とで、探究学習に共同に取り組むチームを編成。
- ・探究テーマは共同研究チームごとに話し合っ決定。生徒は、Zoomを使って定期的にオンラインミーティングを継続し、研究内容に関する意見交換や議論を重ねながら探究学習の深化と拡充を図る。

〈2020年度取組みで設定された探究学習テーマ〉

倉吉東高Aチーム及びセントジョセフ高チーム 「地球温暖化の進行と虫害の拡大」

倉吉東高Bチーム及び安養高チーム 「男女間の事件に関する犯罪心理」

倉吉東高Cチーム及び桃園高チーム 「日本と台湾の英語教育」

- ・それぞれの高校がまとめた研究成果物は、探究学習成果発表会前に双方で内容等を把握。
- ・海外高校チームは倉吉東高校で開催された探究成果発表会で英語による発表を実施。（今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、事前に収録されたプレゼンテーションビデオを上映）

【工夫した点】

- ・オンラインミーティングでは、異文化交流の時間枠も設ける等、生徒が相互理解を深められるよう配慮。
- ・探究学習成果発表会に、課題探究手法等に造詣の深い外部有識者を招いて指導助言を得た。

【今後の課題】

- ・4月中に共同探究活動チームを編成し、より早期から研究活動を開始することで学習深化を図りたい。

【経緯】

1997（平成9）年	韓国・安養高校との交流協定に調印し、第1回韓国研修旅行で交流を行う
2002（平成14）年	第1回国際高校生フォーラムin倉吉を開催し、韓国・安養高校を招く
2018（平成30）年	第17回国際高校生フォーラムin倉吉を開催し、シンガポール・セントジョセフ高校を招く
2019（令和元）年	探究学習活動を開始するとともに、安養高校、セントジョセフ高校との共同探究学習活動を開始
2020（令和2）年	海外高校3校（シンガポール、韓国、台湾）との共同的な探究学習活動を実施



海外姉妹校との連携による取組み 【島根県 松徳学院中学校】

世界に100校以上の姉妹校を持つ本校にとって、国際交流の歴史は古く、その中でも関りの深いフィリピンのマンレサスクールとは2017年からICTを活用としたオンライン交流を積極的に行っている。2020年2月（複数日あれば何日間）に本校中学2年生徒26名とマンレサスクール中学1年生徒17名が参加。互いの食文化や言語、遊び等について教え合い、多文化理解を深めるとともに日常会話の向上を目指す。

【プログラムの内容】

双方の校長、ファシリテーターの挨拶のあと、本校生徒が挨拶、日常会話の日本語表現を伝え、それを受けてマンレサスクールはタガログ語での挨拶や敬語の使い方を教えた。次に本校生徒は折り紙の折り方やオセロの遊び方を英語で説明しながら、デモンストレーションを行った。マンレサスクールはフィリピンで人気のある食べ物やスナックについて説明。ウォーミングアップの段階から互いに質問が飛び交った。その後フィリピンの歌とフォークダンスが披露され、本校生徒がお返しとして歌った「パプリカ」では、海を隔てた両校が同じ振り付けで踊った。準備においてはまずは生徒に「伝えたいこと」を考えさせ、準備し、それをファシリテーターがパワーポイントにまとめた。

【工夫した点】

遠隔でのコミュニケーションは臨場感に欠けるという難点と、通信状況の不具合の可能性、また目が疲れるため長時間集中するのが難しいなどの問題点を孕んでいる。そのため、アクションを多く取り入れ、全員が興味を持って参加できるようなテーマを選んだ。日々の生活をトピックスに選んだことで生徒全員が楽しく、活発に活動することができ、日常英会話の向上と多文化理解に繋がった。

【今後の課題】

中高一貫校としてこの取組みを更に発展させ、本学が取り組んでいる環境問題について双方がディスカッションできるまでコミュニケーション能力を高めたい。そしてこの取組みを地域の方々にも発信していくのが今後の課題である。



【経緯】

1991年	国際文化交流コース発足。姉妹校各国からの留学生受け入れ、生徒派遣を開始。
1993年	フィリピン11校の姉妹校との相互訪問交流開始。
2015年	マニラにあるマンレサスクールから常勤講師を招聘。現在に至る。
2017年	訪問だけではなく、英会話の時間を利用してのオンライン交流を開始。現在に至る。

姉妹校提携による取組み【岡山県立倉敷南高等学校】

2020(令和2)年8月に予定していた姉妹校カシミア高校(ニュージーランド国クライストチャーチ市)への短期留学が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。しかし、姉妹校交流を継続させたいという強い意志が双方にあり、その形態を模索する中で生徒同士のオンラインでの交流を行うこととなった。オンライン交流は7月、9月、11月、2月の4回実施することができ、本校からは全学年のべ65人の生徒が参加し、生徒同士の交流を深めることができた。

【プログラムの内容】

- ・第1回 これまでにカシミア高校短期留学に参加したりホームステイ受入をしたりした2・3年次生の生徒が参加し、「両国のコロナ禍の『新しい日常』生活の様子」、「最近、各国の高校生の間ではやっているものの紹介」をテーマにディスカッションをした。
- ・第2回 文化祭の企画として実施し、第1回参加生徒に加え、生徒会やESS部の生徒も参加した。「両国の学園祭の特徴」、「両国の有名なオリンピック選手」をテーマにディスカッションをした。
- ・第3回 「コミュニケーション英語I」の授業において1年次の生徒が交流を行った。カシミア高校は1年間日本語を学んできた11年生(日本の高1生)の生徒で、初対面の生徒同士で自己紹介や質問をし合った。
- ・第4回 3年次生とESS部員が「卒業後の進路について」というテーマで交流を行った。



【工夫した点】

- ・ディスカッションのテーマは抽象的なものでなくタイムリーかつ身近な話題を設定した。見学の生徒も募集した。
- ・倉敷市の国際交流員ベンソン・ジェームス氏(ニュージーランド出身)に來校いただき助言を受けた。
- ・初めは10人同士が一つのオンライン会議室で交互に発言する形式にした。会話や操作に慣れてくると、本校4人にニュージーランド2人が参加する形とし、会話の機会もより多く確保できるようになった。



【今後の課題】

- ・両校の授業、試験、行事等が合わないことが多く、オンライン交流の日程や実施時間を調整する必要がある。
- ・活動の効果を高めるためには、生徒の会話量やテーマにより、一つの会議室に入る人数を適切に設定することが求められる。

【経緯】

1973(昭和48)年3月	倉敷市がニュージーランド国クライストチャーチ市と姉妹都市縁組を締結する。
2013(平成25)年12月	クライストチャーチ市カシミア高校日本語学習生のホームステイ及び学校への受入を開始する。
2018(平成30)年8月	カシミア高校と姉妹校縁組を締結し、隔年での相互訪問を決める。カシミア高校への第1回短期留学事業を実施する。
2020(令和2)年7月～	第2回短期留学事業が不可能となりオンラインでの交流を開始する。

姉妹校提携による取組み【岡山県立玉島高等学校】

姉妹校(カナダ：サレー・クリスチャン・スクール)との相互訪問や関連した留学等が中止になったため、その代替として、岡山県教育委員会留学コーディネイト事業予算を活用し、ビデオ会議ツールを用いて、ファシリテーター及び通訳を介したオンライン国際交流を実施。各回、両校10名程度が参加し、2020(令和2)年6月～2021(令和3)年1月にかけて計5回、1回1時間程度実施。各回テーマを決めて発表内容を準備し、動画やスライドを用いたプレゼンテーションや意見交換等を実施した。

【プログラムの内容】

- ・構成：交流日は、日本時間9:00～10:00にPCルームに集合し、1人1台の端末を活用し、スライドを用いたプレゼンテーションを軸にファシリテーター・通訳を交え、意見交換を実施。
 同じテーマで双方の考え・取組・現状が異なることを知り、一部は通訳により伝えたいことを明確に伝えることができた。
 次回のテーマを共有し、次回のオンライン会議までの間に、それぞれテーマに沿ってプレゼン内容を考え、資料を作成し、主体的に英語での練習を行った。
 - 第1回 教員同士の交流 自己紹介やコロナ禍での学校・生徒の様子などの意見交換
 - 第2回 「学校・学校生活（授業・部活動・探究活動）の紹介」
 - 第3回 「学校外の生活（日本文化・食・地域）の紹介」
 - 第4回 「withコロナafterコロナからSDGsを考える」
 - 第5回 「SDGsの今後の取組・今後の国際交流・自身の将来展望について」
- ・参加生徒・教員・実施関係者で「事後ヒアリング」を行い、成果と反省を元に、学校ホームページに掲示し、校内外への情報共有を行った。

【工夫した点】

- ・コロナ禍でも国際交流ができるという意識を高めながら、伝わり易さを追究した。交流がスムーズに行くように事前にテーマを決め、投影資料を準備し練習を行い当日に備えた。また現役のアナウンサーによるファシリテーションと通訳の進行で、円滑かつテーマの深掘りが可能になった。

【今後の課題】

- ・姉妹校交流を止めることなくオンラインを活用した交流を継続する意向。アウトプットによるコミュニケーションスキルの向上と、学校として取り組んでいるSDGsのジブングト化を更に発展させるとともに、成果を学校全体に普及させる。

【経緯】

2019（令和元）年9月	カナダのサレー・クリスチャン・スクールと姉妹校提携を締結。
2020（令和2）年4月	例年の3月のカナダ訪問が新型コロナの影響により中止。県教育委員会事業予算を活用しオンラインビデオ会議ツールによるウェブ会議実施を決定。
同年6月～2021（令和3）年1月	計5回のオンライン国際交流実施



姉妹校提携による取組み【岡山県 岡山理科大学附属高等学校】

本学園の姉妹校であるフィリピンのバギオ理科大学附属高校とオンラインを通してSustainable Understanding for Glocal Outcomes and Innovation「グローバルな成果とイノベーションのための持続可能な理解」プログラム実施。本校国際バカロレアコースの15名とバギオ理科大学附属高等学校の10名の2年の生徒が参加し、2020年10月30日15時～16時、12月9日11時～12時30分、2021年3月5日11時～12時30分に実施した。

【プログラムの内容】

- ・ 1回目 2020年10月30日15:00～16:00
日本人とフィリピン人の高校生が、お互いの国、地域社会、学校をよりよく理解するために、英語で慣習、伝統、文化を説明した。ディスカッションや発表を通じて、学生は文化の多様性を受け入れ、国際交流を行った。
- ・ 2回目 2020年12月9日11:00～12:30
国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」について、本校の生徒が説明し、その後各グループに分かれ、話し合いの場を設けた。
- ・ 3回目 2021年3月5日11:00～12:30
それぞれの地元で行っている事例を紹介した。
それぞれの問題を改善し、ゴールを達成するための具体案をグループで考え、共有した。



【工夫した点】

- ・ 交流校の担当者と何度もオンラインやEメールを通して、交流の内容の確認や打ち合わせ
- ・ ZoomやGoogle Meet の確認
- ・ 小グループで生徒が発言できる機会や場所の確保
- ・ ICT教員との連携



【今後の課題】

- ・ ICTの環境改善

【経緯】

2020（令和2）年1月	加計学園はフィリピンのバギオ市にあるバギオ大学との国際教育交流協定を締結した
2020（令和2）年9月	岡山理科大学附属高校とバギオ大学附属高校間での相互に生徒の短期派遣・受け入れを行う協議を行った
2020（令和2）年10月	新型コロナにより相互訪問・受け入れが出来なくなり、ウェブでの交流を始めることになった



姉妹校等とのオンライン交流の実施【山口県立華陵高等学校】

学校主催のホームステイ等さまざまな国際交流事業が中止となったため、代替として英語科の1年生39名と2年生42名が、授業の中で姉妹校であるカワナ・ウォーターズ・ステイト・カレッジ高校（オーストラリア）や、米海兵隊岩国航空基地内にあるマシュー・ペリー高校の生徒とオンラインで交流した。カワナ高校とは7月以降16回、マシュー・ペリー高校とは12月に2回オンライン交流を実施し、お互いの学校や文化の紹介と、それに関する質疑応答を行った。また、来年度に向けて、2年生が「振り返りアンケート」を作成・実施し、その結果の分析と今後の改善策についてまとめ、高校生による探究活動の発表の場である「探究学習成果発表大会」の発表要旨集に掲載した。

【工夫した点】

- 日本語を学習している外国の生徒と、英語と日本語の両方を用いて交流することで、お互いの学習に成果があるよう工夫した。
- 事前に担当教員同士で密に連絡を取り合うことでスムーズな交流が行えた。

【今後の課題】

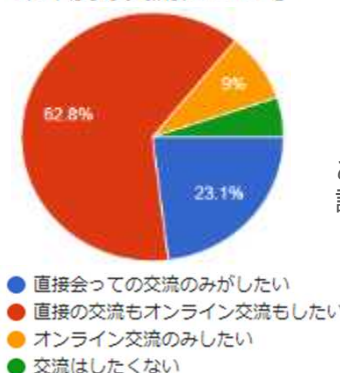
- アンケート結果によると、一人が多く発言できるよう少人数グループで交流する方がよいという意見が多かった。今後、回数や形態をさらに工夫していく必要がある。

【経緯】

2012年12月	オーストラリアのカワナ・ウォーターズ・ステイト・カレッジ高校と姉妹校提携
2020年4月	7～8月の学校主催のホームステイ（オーストラリア）が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止決定
2020年7月	姉妹校であるカワナ高校とのZoomによるオンライン交流開始
2020年12月	マシュー・ペリー高校とのGoogle Meetによるオンライン交流実施

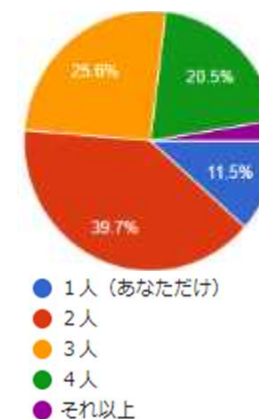


来年度の交流について



実施後のアンケート結果

あなたを含めて何人のグループで相手と話すのがよいと思いますか。





姉妹校提携による取組み【香川県立高松高等学校】

姉妹校（台湾）からの訪問の中止が決定していたが、交流協定を結んでいる台湾の桃園市と香川県の協力の下、姉妹校提携を結んでいる桃園市立武陵高級中等學校とオンラインでの交流がスタート。現在は、学校同士が主体的に、やり取りしながら、交流を継続している。ビデオ会議ツールを用い、現在までに2回の交流を行った。

【プログラムの内容】

- （1回目）県庁国際課会議室にて、昨年度台湾における研修旅行に参加した生徒約10名(2年生)と語学部の生徒約15名(1,2年生)が参加。桃園市立武陵高級中等學校 日本語クラスの生徒約10名とzoomを利用して、パワーポイントによる両校の学校生活の説明や質疑応答を行った。
- （2回目）本校にて、語学部の生徒約5名(1年生)が参加。桃園市立武陵高級中等學校 日本語クラスの生徒約5名と、google meetを利用して、やや簡単な話題に対する質疑応答を行った。

【工夫した点】

- ・県のメールアドレスでは対応できないため、教員も生徒も新たにgoogleのアカウントを取得した。
- ・時差や授業進度などを考慮すると日本側では授業で実施することは難しく、部活動で取り扱った。

【今後の課題】

- ・zoom, google meetなどについて、教員が使い方をよく知らないなので勉強が必要である。
- ・調整したり、機材や環境を整えるのに見えない手間がたくさんかかるので、協力して取り組む。
- ・スケジュールの調整が難しい。2回目は先方に旧正月中（休暇中）に自宅から実施してもらった。
- ・教員も生徒も多忙を極める中、自立して、自主的に、個人的に交流を進めることが課題である。



【経緯】

2015(平成27)年～	訪日、訪台の機会に合わせ、相互に学校訪問を実施
2019(令和元)年12月	桃園市立武陵高級中等學校と姉妹校提携を締結
2020(令和2)年度	年度内の台湾からの訪問が、新型コロナの影響により中止。桃園市と香川県の仲介により、ビデオ会議ツールを活用した交流会を開始。

韓国の連携校（順天江南女子高等学校）との取り組み【高知県立高知西高等学校】

本校主催の海外リサーチプログラムが中止になったため、その代替として、オンラインによる海外高校（順天江南女子高等学校）との交流を実施。

【プログラムの内容】

1. 全羅南道国際交流（韓国）：順天江南女子高等学校との交流活動（令和2年12月19日）本校英語科生徒（2年生：2名・1年生3名）が参加。順天江南女子高等学校からは、1・2年生15名が参加。Zoomにて、互いの学校紹介や若者文化について、情報交換を行った。

【工夫した点】

- ・Zoomによる英語・韓国語を介しての交流。
- ・Zoomやメールを通して、交流発表会事務局との連絡。
- ・小グループで活動を行うことで、生徒自身の役割に対する責任感や探究にかかるモチベーションを持たせた。
- ・オンライン交流だけでなく、オフラインの交流（手紙やプレゼント交換）も行い、生徒の異文化に対する興味・関心を高めるようにした。

【今後の課題】

- ・オンラインでの活動が、選ばれたグループのみの活動になっている。
- ・今後はより多くのグループが校外の関係諸機関と連携を取る活動が必要。

【経緯】

2020年10月	全羅南道教育庁（韓国）より高校間交流の依頼
2020年12月	高校間交流実施
2021年 2月	順天江南女子高校とのプレゼント交換を実施



姉妹校提携による取組み【福岡県 東海大学付属福岡高等学校】

姉妹校（マレーシア クアラルンプール）との5年間に渡る両校への訪問の代替案として、メッセージムービーの交換をスタートに、3回のビデオ交流を実施。両校の参加者同士でペアを作り、各回1時間ほど実施。姉妹校の英語科教員による本校生徒への英語スピーキングに対する指導も実施。

【プログラムの内容】

全体の流れ（事前） 両校国際交流に関わる全スタッフによるKick-offミーティング
 3回のセッション内容 ①自己紹介（特技披露）②お互いの興味のあること ③英語スキットの創作

【工夫した点】

コロナ禍で、円満な両校の関係が途切れないように、2日に1度は両校スタッフ内で近況報告をして関係維持に努めた。
 本来ならば、本年度国際交流に関わりたかった生徒を積極的に探して、参加を促がした。生徒は、ビデオ会議に家庭ではなく学校から参加し、英語力に自信がない生徒には、教員のサポートがあることを事前に伝えた。



【今後の課題】

・今年度2回目の交流としてSDGsのテーマより「豊かな水」「プラスチック利用の将来」についてディスカッションを3月に3回を1セットに実施する。両国が共有する問題に対して、違う視点を共有する。



【経緯】

2015年2月	福岡県私学協会のアジア交流事業を契機に、マレーシアのセコラ・スリ・ベスタリ高等学校と姉妹校締結を調印。
2015年11月	両校による「文化交流プログラム」開始。生徒10～15名、教員2～4名が10日間を両校で過ごす。
2019年4月～10月	「両校3か月留学プログラム開始」。マレーシアの高校より1名、本校より2名が3か月留学を体験。
2020年7月	ビデオ会議を実施

姉妹校提携による取り組み【福岡県 博多女子中学校・高等学校】

今年度は、姉妹校（オーストラリア）からのジャパンツアーの受け入れと春休みに実施予定していた姉妹校への海外研修が中止となり、代替案としてオンラインバディープログラムを企画した。参加希望する両国の生徒が自身のiPadを用いて、相互に英語と日本語を駆使しながら、メールなどのウェブ媒体を介して異文化交流を図っている。また、2年前よりSkypeやFaceTimeを用いて、高校普通科英語クラスと姉妹校の日本語クラスと年に数回繋いで授業交流を行っている。

【プログラムの内容】

- ・ 全体のテーマ「オーストラリアと日本の物価調査」
スーパーの広告を用いて両国の物価についてグループ毎にインタビューし合う活動を実施した。英語による数の聞き取りや英語圏の異なる単位などを学びながら、現地で日本語を学ぶ7年生の生徒たちへ日本語特有の個数の数え方を教えたり、英語でオーストラリアの生徒たちへ質問することに挑戦した。



【工夫した点】

- ・ 姉妹校の先生方とメールを介して相互に学び合える授業内容を、事前に協議し企画実施した。本校の生徒たちはネイティブのスピードで読み上げる数字を聞き取るリスニングの練習に、オーストラリアの生徒たちは日本語特有の個数の数え方の練習になるように工夫した。

【今後の課題】

- ・ 今後は長期的に継続して相互に学び合えるオンライン授業が行えるように、姉妹校の時間割と調整しながらカリキュラム化を図る必要がある。（来年度から全科生徒にiPadを配布するので）新たなテーマを掲げ、姉妹校の生徒たちとiPadを用いて1対1のオンラインレッスンを企画したい。

【経緯】

1990（平成2）年7月	オーストラリアのペンロスカレッジ（本校2校目の姉妹校）と姉妹校提携を締結。毎年、交換留学生の派遣を実施。
2018（平成30）年4月11日	オーストラリアの姉妹校ペンロスカレッジの情報担当の先生より本校とSkypeで授業を行いたいとのメール連絡を受け、授業計画の打ち合わせを開始。
2018（平成30）年5月10日	現地の日本語を学ぶ生徒たちと本校の3年生をSkypeで繋ぎ、パソコン室でグループ毎に英語で現地商品の値段の聞き取り調査を実施。同時に、姉妹校の生徒たちから日本語で質問された商品の値段を日本語でゆっくり回答した。
2020（令和2）年11月～	オンラインバディープログラムを実施する。2月は両校でwebアンケート調査を実施し、更なる交流の充実を図る。

姉妹校連携による取り組み【熊本県立熊本高等学校】

2019年10月に台湾の国立中科実験高級中學と姉妹校提携を行った。生徒同士の交流もその目的の一つであり、修学旅行等で生徒が直接訪問したり、Webでの交流を計画をしていくことになった。新型コロナの影響により、直接訪問することはできなくなったが、高校1年の生徒同士のWeb交流を12月に行った。

【プログラムの内容】

- ・今回は初めての交流であったため、まずはお互いを知ることが目的とし、内容も互いの学校や社会などについて関心のあることを中心に情報の交換を行い、気軽に積極的な姿勢で交流ができることに重点をおいた。
- ・台湾の歴史や現状、相手校の教育活動などについて事前学習会を開いて知識を深めた。以下の手順で行った。
 1. 自己紹介
 2. 互いの学校や社会などについての質問を行う。

【工夫した点】

- ・台湾の歴史や現状などについて事前学習会を開いて知識を深めた。
- ・いくつかの質問については事前に交換して、当日の理解の助けとした。
- ・中国語も話せる生徒が1名、英語での交流が行き詰まったときに備えて参加した。

【今後の課題】

- ・今後も交流は定期的に行っていくことになっているので、内容の充実をはかり、交流の機会を増やし、より多くの生徒に参加してもらいたい。



【経緯】

2019年（令和元年）9月	姉妹校提携時の訪問生徒による事前Web交流
2019年（令和元年）10月	国立中科実験高級中學と姉妹校提携
2020年（令和2年）12月	Web会議実施



姉妹校提携による取組み【沖縄県立那覇国際高等学校】

米国ギャラティン高校と昨年姉妹校提携を結び、ギャラティン高校の社会のクラスと本校有志で交流を開始。Youtubeでも有名な「VOGUE 7 3の質問」という番組を参考に、お互いに7 3の質問を相手に送り、その質問に対する答をビデオに取り交換。同校1・2学年の生徒23名が参加し、これから定期的（1ヶ月1回）に実施していく予定。まだ始めたばかりではあるが、本校主催の米国短期研修に繋がる活動を予定。

【プログラムの内容】

1. お互いのことを知るため、7 3の質問を作成しお互いに交換する。
2. 質問の答えを動画で作成する。

【工夫した点】

- ・有志で活動を行っているため、小グループに分け、各グループの連絡係を決めるなど、活動しやすい工夫をした。
- ・質問を作成する際、偏らないように最初にテーマなどを決めた。
- ・動画を作成する際、答えをなるべくシンプルで分かりやすくかつ学校の様子を多く入れる工夫をした。

【今後の課題】

- ・始めたばかりであり、内容をさらに工夫するとともに、校内における教育活動として位置づける。
- ・これからどのように発展させていくか明確なビジョンと具体的な計画を継続して行う必要がある。



【経緯】

2020（令和2）年12月	米国ギャラティン高校と姉妹校提携を締結。
2020（令和2）年12月	米国ギャラティン高校とのオンライン交流を開始。お互いに7 3の質問を送り、質問に対する応答を動画で取り交換した。